

第67回全国お茶まつり京都大会

宇治茶世界文化遺産シンポジウム

— 日本茶のふるさと 宇治茶を世界遺産に —

実績報告書

第67回全国お茶まつり京都大会実行委員会

平成26年2月

宇治茶世界文化遺産シンポジウム



目 次

あいさつ

- 第67回全国お茶まつり京都大会実行委員会委員長 2
- 第67回全国お茶まつり京都大会長 3

シンポジウムの概要 4

ミニコンサート 6

基調講演

- 杉尾伸太郎氏 8
 - ・講演資料 14
- 久保美智代氏 18
 - ・スライドショー 26
 - ・講演資料 30

トークセッション 37

世界遺産の歌「ここに生きる」 56

会場の様子 57

- にぎわいコーナー 57
- ギャラリー 59
- パネル展示 65

広報資料 68

- ちらし・広報誌等 68
- 新聞等 79

あいさつ

第67回全国お茶まつり京都大会
実行委員会委員長
公益社団法人 京都府茶業会議所
会頭 杉本 貞雄

本日は多数の皆さま方にご来場いただきまして、誠にありがとうございます。

宇治茶の世界遺産登録に向けての取組は、本年の8月、学識者をはじめとする登録検討委員会において、資産の名称を「日本茶のふるさと『宇治茶生産の景観』」とするコンセプトが決定しました。景観を主力に宇治茶の世界遺産登録をと考えております。

宇治茶の栽培は鎌倉時代に明恵上人が宇治・山城にお茶を植えたことに遡ると言われています。この生産が先人のおかげで800余年続き、この地域の景観を作り上げてきたとともに、茶の湯という伝統的な文化を発展させてきました。

日本茶の代表的な抹茶、玉露、煎茶はこの宇治地域を発祥の地とし、覆下茶園や山なり茶園で作られ、皆さんに親しんでいただいています。私達関係者は、先人が努力して残してくれたものを支え、育てていくため、宇治茶を愛する皆さんとともに、人類の貴重な宝である世界文化遺産として登録してもらい、後世に伝えていきたいと思っています。

本日のシンポジウムは、宇治茶の世界文化遺産登録に必要な地域づくりと応援団づくりのための一歩です。私どもだけでなく、ご参加の皆さんもどうかご協力、ご支援をお願いします。「本日が世界文化遺産へのキックオフの日である」そういう心構えを皆さま方と合言葉にしながら取り組んでいきたいと思っています。



—本日が世界文化遺産へのキックオフの日—

あいさつ

第67回全国お茶まつり京都大会長 京都府知事 山田 啓二

いよいよ全国お茶まつり京都大会が近づいてまいりました。今日は関連事業の一つとして開催いたします「宇治茶世界文化遺産シンポジウム」にお越しいただき、ありがとうございます。先ほど杉本会頭に登録に向けてのキックオフ宣言をしていただきました。世界文化遺産と宇治茶がほんとに繋がるのかと思われる方もいらっしゃると思いますが、フランスのボルドーの「月の港」が世界遺産となっているように、地域で生活と結びつき、歴史の蓄積があり、そして文化の誇り高い、我々の生活と切っても切れないお茶は、その素晴らしさをみんなで分かち合い、そして維持し保存し発展させていかなければなりません。そのきっかけをつくりたいという想いで、世界文化遺産の登録を目指している訳です。

最近やはり、ファーストフード全盛の時代なのか、どこへ行ってもペットボトルのお茶が中心になっています。ペットボトルが悪い訳ではありませんが、50℃に冷ましたお湯でゆっくり入れる玉露や水出し玉露といった、本当のお茶の美味しさを知らない次の世代が育っていくというのは、本当に残念です。私たち日本人にとっても悲しいし、宇治茶にとっても悲しいことだと思えます。小さい頃から宇治茶の味を知り、それを愛し、同時にそれを育ててきた景観、歴史というものを大切にしていって、こうした取り組みを皆さんとともに進めていくことこそ、宇治茶の未来をつくる取り組みだと思っています。

世界文化遺産の登録への取り組みは、単に世界文化遺産を目指すのではなくて、宇治茶の将来をつくる取り組みです。是非とも大勢の皆さんにこの運動にご参加いただき、地域から、また宇治から、そして京都から盛り上げていきたいと思えます。宇治茶の素晴らしさこそ、山城地域、そして京都の宝なんだということを分かち合い、お茶まつりの成功に向かって心あわせてがんばって参りましょう。



—地域から、宇治から、京都から
世界文化遺産登録を盛り上げていきましょう—

シンポジウムの概要

日時 平成25年10月19日(土) 11:30 ~ 17:00

場所 宇治市文化センター・小ホール

当日は満席に近い約350人が来場され、開演前には、水出し玉露の振る舞いや日本茶インストラクターによる美味しいお茶の淹れ方教室、抹茶体験教室などで宇治茶に親しまれました。

また、宇治茶の歴史や文化を紹介するパネルや茶畑の景観などのギャラリー展示も行い、宇治茶の魅力を多くの方々に発信しました。お茶まつり応援団の京都府広報監まゆまる、チャチャ王国のおうじちゃま、和束町の茶茶ちゃんも応援にかけつけ、会場を盛り上げました。

ステージ 13:00 ~ 17:00

あいさつ

○第67回全国お茶まつり京都大会実行委員会委員長

公益社団法人京都府茶業会議所会頭 杉本 貞雄

「本日が世界文化遺産へのキックオフの日。皆様のご協力をお願いします」

○第67回全国お茶まつり京都大会大会長 京都府知事 山田 啓二

「地域から、また宇治から、そして京都から世界文化遺産登録を盛り上げていきましょう」

ミニコンサート

案内人：木野正男氏（茶生産農家）

茶畑コンサートで演奏を行っているバンド Lepus（メンバー：ほぎきまゆみ（Vo,G,Fl）、高松和弘（コウノトリ）（Vo,G）、ミンソン（G,B）、弦牧潔（Dr）、織野ナオ（P））の演奏

「ゆっくり流れる時間を茶畑で楽しむと僕も聞いている皆さんも、豊かな気持ちになれます（高松）」

「茶畑で音楽を流したら、偶然にも一等一席をいただいた。それ以来、茶畑と音楽は切り離せないなどの思いで毎年コンサートを開いています（木野）」

基調講演

世界遺産に詳しい専門家のお二人から世界遺産についての講演

○杉尾伸太郎氏（イコモス文化的景観国際学術委員会副会長）

「宇治茶を考えると、世界文化遺産に当てはまるなという感じがします」

○久保美智代氏（旅する世界遺産研究家、アナウンサー）

「茶畑の景観を見たときに、なんでこれが世界文化遺産じゃないのかと思ったんです」

トークセッション

専門家による宇治茶の魅力トーク

進行：森正美氏（京都文教大学教授）

下岡久五郎氏（京都府茶業会議所専務理事、茶生産農家）

杉尾伸太郎氏、久保美智代氏

「宇治茶は喉を潤すものではなく、心を潤すものです（下岡）」

「みんなで世界遺産を目指す取組を前進させていければいいと思います（森）」

世界遺産の歌「ここに生きる」

宇治を拠点に学校でのワークショップや市民劇の企画など多様な活動を展開するNPO法人山城こみねっとによる合唱

（歌詞 NPO法人山城こみねっと）

ホオジロ飛び立つ深い緑 いっせい芽吹く一面茶畑
まぶしい日差しささぎる茶園 和東南山城一面茶畑
うるわし緑の線状模様 長く変わらずここにある
古き世に手塩にかけて 育てた青製煎茶
今は誰もが飲んでいる
茶問屋 茶農家 茶師屋敷 ならぶ
宇治 上狛 宇治田原

※ここは私が育った大地
ここに私のすべてがある
悠久の歴史（とき）が作ったこの土地（ばしょ）が
世界をなごます 世界をうならす
朝焼けの雲 紺碧の空 浮かぶ綿雲 しみこむ雨水
そのすべてが 茶の緑を深くする
そのすべてに 歴史が生きている

ウグイスなく露が光る茶園 わらの香り漂う覆い下
深い緑たえる若葉 ふくらみだした命 みなぎる茶畑
わびさびつらぬく日本の伝統 世界の宝休茶道
榮西種を伝え始まる 歴史支えた宇治茶
今はすべての地に広がる
茶道 煎茶道 うまれ 脈々生き続け
湯船・白川 童仙房 山城の地 ※くり返し

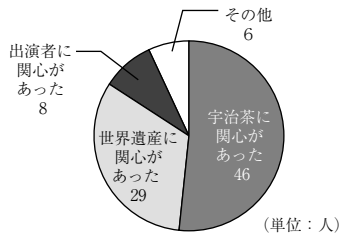
宇治茶に親しめる各種体験プログラムなどを実施
コーナー

- 水出し玉露の振る舞い………京都府茶業会議所、宇治茶レディ
- 抹茶体験教室………楽茶館
- お茶の淹れ方教室………日本茶インストラクター協会京都府支部
- 茶染め体験………京都ローターアクトクラブ
- 新鮮野菜の販売………J A 京都やましろ
- 宇治茶スイーツの販売………宇治市食育ネットワーク（まきしま絆の会）
株式会社京のちから 菓子工房ぐらん・ぶるー

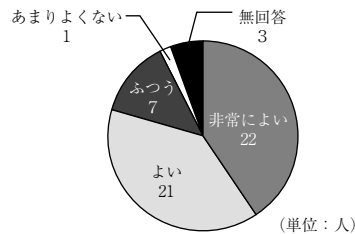
来場者アンケート結果

回答数 54人

○ご来場いただきました理由は何ですか？
(複数回答)



○今回のシンポジウムはいかがでしたか？



○シンポジウムに参加して、宇治茶についてどのように感じられましたか？
(複数回答可)

- ・宇治茶の価値を再認識………27
- ・宇治茶を未来に残したい………18
- ・世界遺産登録を積極的に応援………26
- ・茶畑を見に行きたい………11
- ・急須で飲みたい………7

(単位：人)

感想

- 世界遺産登録の取組に関すること
 - ・世界遺産を理解し、興味を持つよいきっかけになった。
- 宇治茶に関すること
 - ・宇治から全国にPRしてほしい。これからは味、後味を楽しみたい。
- にぎわいコーナーに関すること
 - ・玉露の体験がすごく楽しかった。今回、初めて宇治茶を体験して感動した私と同じように世界中の人にもそれを感じて欲しい。

宇治茶の世界文化遺産登録推進プラットフォームについて

シンポジウムの企画運営は、宇治茶の世界文化遺産登録を目指し、官民一体となった取組を推進する「宇治茶の世界文化遺産登録推進プラットフォーム」のメンバーを中心に行いました。本プラットフォームでは、宇治茶の世界文化遺産登録を目指した地域づくりと応援団づくりを推進しています。



ミニコンサート

出演者紹介

案内人：木野 正男 氏
(茶生産農家)

Lepus (レプス)

メンバー：ほごきまゆみ (Vo,G,Fl)、高松和弘 (コウノトリ) (Vo,G)、ミンソン (G,B) 弦牧潔 (Dr)、織野ナオ (P)

2011年に結成されたプロジェクトバンド。豊かな自然や人、風景を曲にして、南山城村の茶畑コンサートのほか、カフェ、洋服店、古民家などを舞台に、演奏を続けている。



L e p u s：わたしたちL e p u sは、毎年新茶の季節になるとコンサートをさせてもらっている南山城村の茶畑があります。今日は、茶畑のオーナーである木野正男さんにご紹介してもらいたいと思います。木野さんどうぞ。

木野さん：今ご紹介いただきました南山城村の木野でございます。高松さんとは知り合ったきっかけを皆さんにお話したいと思います。

平成18年に南山城村茶E C O (茶エコ) プロジェクトというのを発足しまして、平成20年にN P O法人を結成いたしました。そこで本日の高松さんと出会いました。それ以来、今年までずっと茶畑コンサートを開催しています。5月の最後の土曜日か日曜日に、茶畑の中で音楽を聴く催しを開催してまして、たくさんの方にお越しいただいています。この後高松さんのコンサートをお聞きいただきますが、舞台の背景が茶畑ですので、茶畑で聴いているという感覚で高松さんのコンサートを聞いてもらえたら幸いです。

(演 奏)

久保さん：木野さん、レプスの皆さん、ご登場ください。(拍手) まず、木野さん、この茶畑コンサート、発案が面白いんですが、どのようにして始まったんでしょう。

木野さん：毎年お茶を作っていますと、行き詰まる時があるんです。いいものがない。ある時娘が、お酒をつくっているところでモーツァルト流してやってる、というのをたまたま見て、「お父さん、うちの畑で音楽、モーツァルト流したらどう？」と言うんです。そのときは「それはええな」とはならなかったんです。音楽聞かせていいお茶ができるはずがないやろけど、「やるならやってみいよ。」と。その結果が偶然にも、モーツァルトが効いたのか運が良かったのか、肥培管理が

よかったのか、たまたま品評会で一等一席いただいて。それ以来、茶畑と音楽というのは切っても切れないのかなあと。そういうところから高松さんとの出会いもありました。

久保さん：木野さんは、農林水産大臣賞を9回も受賞されているとのこと。これはモーツァルトの効果が出てるんじゃないかと思いますが…（拍手）。宇治茶伝道師としても活躍されていらっしゃるんですね。さて、お隣の、歌とクラシックギターを披露して下さった高松さんにも伺いたいと思います。茶畑コンサートでもう何回も演奏なさってますが、どんな気持ちで宇治茶をバックに演奏されていますか？



高松さん：演奏していると本当に気持ちいいですね。茶畑はお茶の葉を育てる場所だと思ってたんですけど、木野さんがされてることは、「茶畑でゆっくり流れる時間を楽しむ」ということで、素晴らしいなと思ってます。聞いている皆さんも、のどかな気持ちというか、豊かな気持ちになって帰っていただく場所だなと思うので、演奏している僕も楽しいしです。

久保さん：お茶畑でコンサートをはじめる前と後では、お茶の味って変わりましたか。

ほざきさん：自分でお茶を摘んだことなんてなかったんですが、茶畑コンサートの前にお茶摘みの体験させていただきました。それから自分で家で茶畑を思い出しながらお茶を飲むようになり、ひと味違うような気がします。

久保さん：好きなお茶は？

ほざきさん：宇治茶です！

久保さん：皆さん盛大な拍手をお送りください。どうもありがとうございました。

基調講演

(株)プレック研究所取締役会長
イコモス文化的景観国際学術委員会副会長
すぎおしんたろう
杉尾伸太郎 氏

実は、大学の教養課程が宇治分校だったため、私は学生時代に宇治には300回近くは来ていますが、あまりお茶ということに目覚める場面がなかったと思います。こういう機会を与えてもらってはじめて宇治茶の素晴らしさに触れさせていただいて感謝しております。

世界遺産という言葉はすっかりおなじみになりましたが、過去から現在へ引き継がれてきた人類共通の宝物が世界遺産だと定義づけられており、文化遺産、自然遺産の保護の条約に基づき、顕著で普遍的な価値として認められたものが世界遺産リストに登録されます。

文化遺産は、記念物とか建造物群とか遺跡など。自然遺産は地形・地質、生態系、景観といったもの。複合遺産は複合的に両方の要件を満たしたものです。文化遺産は現在1,000近く登録されており、そのうち759件は文化遺産、193件が自然遺産、複合遺産は29件に過ぎません。

現在は195か国が加盟するユネスコ（国際連合教育科学文化機関、United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization；U.N.E.S.C.O.）は、憲章によって1946年に出来ました。1948年に国際自然保護連合・アイユシーエヌ（国際自然保護連合、International Union for Conservation of Nature and Natural Resources；IUCN）が発足。これが、自然遺産の審査を行います。

1959年、アスワンハイダムがエジプトに建設され、そのとき有名なアブ・シンベルの神殿などが水没の危機に瀕し、各国が協力して保護のため取り組んだのがきっかけになりイコモス（国際記念物遺跡会議、International Council on Monuments and Sites；ICOMOS）が設立されました。

1971年、国連人間環境会議の常任議会で世界遺産の条約づくりが検討され、72年には通称世界遺産条約が採択され、早速世界遺産リストへの登録が開始されました。

文化遺産と自然遺産は、それぞれ最初はバラバラでしたが、同じユネスコなので一緒にや



ろうということになりました。自然遺産は、ちょうどアメリカの国立公園創設100年目となる1972年が契機で、79年には登録が開始されます。世界最初の国立公園イエローストーン国立公園も、このとき登録になりました。

日本は、自然遺産に関しては、都道府県立自然公園があり、国定公園があり、さらに国立公園がある。文化財の方も、国宝があり、特別名勝がある。その上にまだ世界遺産が必要なのか、ということや、負担金も結構あるぞということで、少し様子を見ているうちに、24年たってしまいました。

このうちにだんだん国際的なツーリズムは世界遺産でないと、という風になってきましたし、一方では文化的景観という考え方も取り入れこれも世界遺産にしていこうという流れもできました。

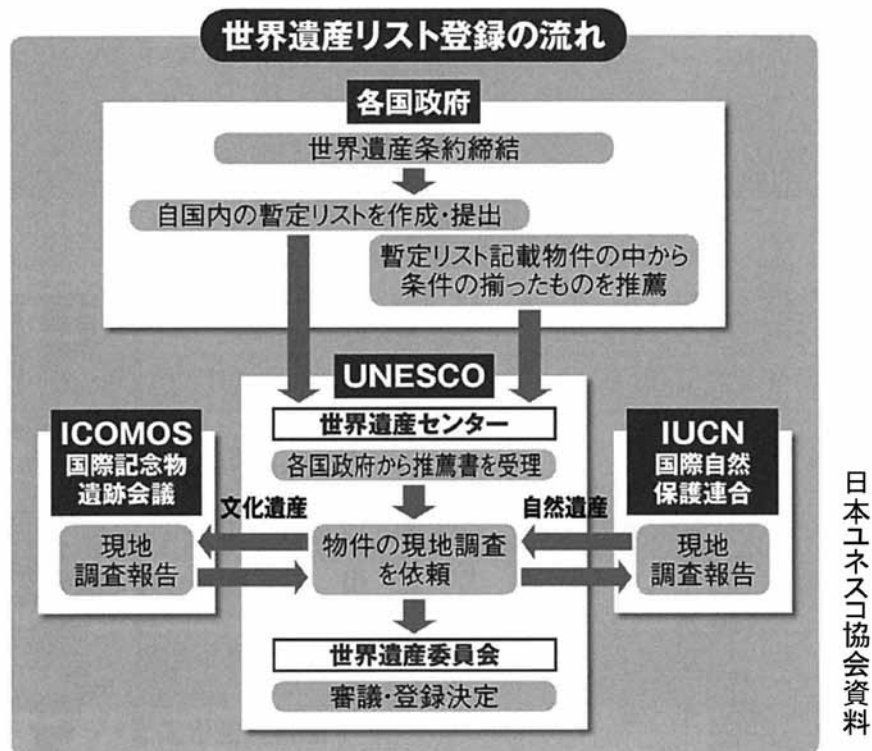
そして、1993年に日本も125番目の締約国になりました。屋久島、白神、それから法隆寺、姫路城などが世界遺産に登録されました。

世界遺産に登録される流れは、まず、各国政府が世界遺産条約を締結します。それを国内で批准した上で自分の国の中のこんなところを世界遺産に登録したらどうかという暫定リストを作って提出します。ユネスコは暫定リストを受け取るだけで、各国政府が調査研究を進め、条件が揃い十分保護できるとなったものについて推薦をします。すると推薦書に基づいて世界遺産センターが現地調査をします。自然遺産に関してはIUCNという組織が審査にあたり、文化遺産についてはイコモスという組織が審査にあたります。

私個人はイコモスのボランティアを長年やっていたのですが、急に世界遺産の審査もやるぞ、お前もやれということで日本以外の国の審査に携わることもあります。サッカーのレフェリーと同じで日本の国のレフェリーはできません。

その後審査の結果をとりまとめ、世界遺産委員会に結果を報告します。その審査でいいよとなったものに対し世界遺産委員会がダメだという結論

を出したことはありません。いろいろ条件がついたりすることはあります。



日本ユネスコ協会資料

登録に要する時間は、だんだん長くなってきており、日本で一番最近世界遺産登録をした富

士山の場合は、平成18年に国に暫定リストの追加を提案したものです。暫定リストとして国が載せ、それをユネスコに出し、県が文化庁へ提出した原案を作り直したり追加したりしながら正式な推薦書を作成し、これを国から世界遺産センターへ提出します。それからイコモスの現地調査があったりして、最終的には世界遺産委員会で認められ登録となります。つまりこまめで7、8年かかっているということになります。

日本の世界遺産は、現在富士山を含めて17か所ですが、自然遺産4か所。それから文化遺産であります。暫定リストというのは現在12件出ており、それぞれ、平泉の追加の部分とか、富岡製糸場であるとか、国立西洋美術館、鎌倉が前回1回は撤退しましたので改めて出すこととなります。

登録基準は10項目あります。「創造的な才能を表す傑作」というのは例えば、立派な建物や庭などがあたります。それから人の交流を示すような遺産が2番目で、文化的な伝統の証拠になっているもの、歴史的な重要な建築景観の類型を形作っているもの。伝統的な土地利用であるとか、信仰の山、芸術のもとになっている山の風景なども登録基準に入ってきますし、最上級の自然の現象とか自然美、そういうものも対象になります。このあたりから主として自然遺産の受けもつ部分かもしれませんが、生命の進化の記録とか地理学的な特色とか生態系や動植物の群集の変化、絶滅の恐れのあるような種の生息地とかそういったようなものが登録の基準になっています。そのほか「完全性」「真実性」、つまり遺産の構成要素が全部揃っている必要があり、それらが本物であるかどうか大きな要素です。



文化的景観というのは、文化的な資産であって、自然と人間との共同作品であるといわれています。人間の社会や居住地が、自然環境による物理的な制約がある中で、社会、経済、文化といった力によって継続的な影響を受けながらも、どんな風に進化してきたかということ为例示するものだと。これを宇治茶に置き換えながら考えてい

くと「うん、当てはまるな」という感じがするかもしれませんね。そのカテゴリーを3つに分けていますが、これは都林泉名勝園会みやこりんせんめいしょうずえからとった龍安寺の庭です。第1類型は、こういったものが人間によって意図的に設計されて創造された景観でありまして、庭や公園などがそれにあたります。

それから第2類型は自然とのかかわりの中で形ができてきたものです。残存景観というのはどこかでプロセスが止まってしまったもの。日本で言えば縄文遺跡みたいなものです。継続景観というのは自然、伝統的な生活と密接に結びついて現代でも生きている、社会的な役割を果たしてまだ進化しているものだというもの。

最初の、プロセスが途中で止まってしまった例（残存景観）というのは、例えばこういったラオスの遺跡です。フィリピンの棚田は、まだ使われていて2番目の例です（継続景観）。そうすると宇治の茶畑はこの類型に属するのではと感じます。

第3類型は、文化的な景観が関連性によるもので、自然的要素が強烈に宗教や文化や芸術に関連している、影響をもっているもので、「紀伊山地の霊場と参詣道」という日本の世界遺産で、雲海の中に浮かぶ峰々を示しています。こういったものから霊的な要素を受け取って山岳宗教が発展してきたんだらうと、影響を受けてきたんだらう、と思います。

1949年にイフラ（国際造園家連盟、International Federation of Landscape Architects ; I.F.L.A.）という造園家の集まりがユネスコの傘下に発足し、日本も入りました。その中に景観歴史的提案及び遺跡の研究会が立ち上げられ、その直後にベネツィア憲章ができたために、イコモスの活動がこの憲章に基づいて動き始めます。世界遺産条約が採択された1972年、イコモスとイフラが合同で、歴史的庭園国際委員会をつくりました。これが私が現在属している委員会で、フィレンツェ憲章というのをつくりました。

これは今までは歴史的庭園の研究会、委員会だったんですが、その中でも、歴史的な庭園は建物と大いに関係があります。建物を一式で保存しないといけない。庭に植えた木はどんどん成長して変化する。例えば、ベルサイユ宮殿にルイ14世の命令でル・ノートルが植えた木は400年たった現在1本もありません。つまり次の世代の木に変わってしまっているわけです。日本も同じことが言えるわけで、秀吉が眺めた桜の木はもうないんでしょうね。そういうふうにとだんだん木は変わってくるので、今までの変わらないものだけを文化遺産としていくのでは不十分であらうということで、文化的景観の概念も入ってきます。

文化的景観というのはその流れを受けて、地域における人々の生活または生業及び当該地域の風土に形成された景観地。宇治茶の郷もそういったことになるなという感じもしますが、文化庁は2004年に文化財保護法を改正して文化的景観を取り入れることになりました。国土交通省も併せて景観法というのを作りまして、景観地区というのを設けることができるようになったわけです。

宇治茶のような農業景観が文化的景観として世界遺産に登録されている例としては、フィリピンの棚田、メキシコではリュウゼツランとテキーラの産業施設、インドネシアでは棚田、灌漑施設、ハンガリーではトカイワイン、それからポルトガルのブドウ園、コロンビアのコーヒーなどいろいろあります。しかし、今のところお茶というのはありません。コーヒーはあるがお茶はない。

世界で文化的景観という公式な名前、名目で登録されているものは84件あり、どうもそれ以外にも文化的景観だと思われるものはいっぱいあります。きりがないので日本では石見銀山と紀伊山地の霊場と参詣道が文化的景観として登録されていますが、富士山は実は文化的景観としては登録していません。

宇治茶の場合、日本最初の農業文化的景観となる可能性は大いにあるというわけになります。宇治茶の栽培法と製法ということですが、ここにたっている石碑は、蜻蛉石^{かげろふいし}というもので、私は実は見たことはないのですが、今でもあるはず。作者は不明で真ん中に阿弥陀如来が彫ってあって、右に観世菩薩、左に勢至菩薩^{せいしほさつ}が彫って

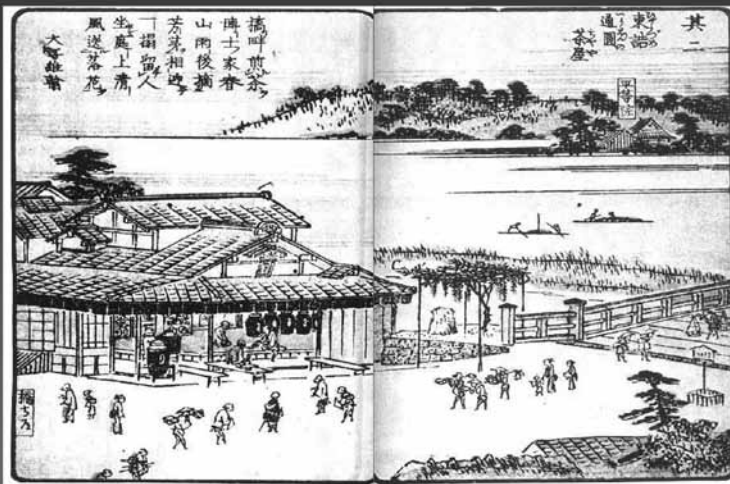


ある。この絵はその目的で書かれた絵ですが、後ろの景色をみていただくと、お茶の栽培の景色があって、ここに覆下栽培をやっている、ここらへんも小さな次のお茶の幼木を植えている。ここらへんでは、干したり選別したり作業している。ここにも蒸したりする作業場がある。蔵らしいものもあるし、接待をしたりするお屋敷とか茶商が住んでいた家なども描かれているわけであり。これはなかなかおもしろいなと思って今日皆さんにお見せしたわけですが、これは「拾遺都名所図会^{しゅういみやこめいしよずえ}」というもので、「京の名所図会を読む^{むねまさ}」という宗政さんが書いた本の中に出てきます。江戸時代の末期に、こういったような風景がはっきりと描かれているわけがあります。

次のスライドですが、ここは宇治川で、これは平等院です。東詰の通園茶屋ですね。私、この前を何遍も通っていたのですが、全然気付きませんでした。普通の売店かなと思っていたんですが、これは恐るべき文化財であります。これも「宇治川両岸一覽^{うじがわりょうがんにちらん}」という江戸の末期の古

宇治茶の販売・喫茶など

東詰通圓の茶屋



宇治川兩岸一覽 上

文書、上巻に出できます。ここでお茶を点てたり、買ったりすることもできます。製造から喫茶という文化まで、絵から十分読み取れます。

この絵では、お茶を摘んでいるかどうかわかりませんが、お茶に関する商売をやっている。この絵が描かれたのは1863年

で、その橋の東詰にあって往来の人々にお茶を商う、ということが書いてあります。お茶に関する文献はこれ以外にも数々ありますが、その点で宇治茶の世界遺産の可能性は面白いと考えられるのではないかと思います。

今後は皆さま地域の方々の協力・熱意で行政を動かして世界遺産になっていくといいなと思います。まず、郷土を美しく磨いていくということが大切です。文化的景観という言葉も入っていますので、堂々たる歴史、揺るがない歴史だけでなく、現在の景観、今後の景観を磨き上げていくということが大切なのではないかと思います。それをやっている間に結果として世界遺産の登録が果たされるのではないかと考えています。

ご清聴ありがとうございました。

講演資料



世界遺産とは何か

- ◆ 世界遺産とは、地球の生成と人類の歴史によって生み出される過去から現在へ引き継がれてきた「人類共通の宝物」
- ◆ 世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約に基づいて、顕著で普遍的な価値 (Outstanding Universal Value) を有するものとして、世界遺産リストに登録された資産 (Property・不動産) を指す

世界遺産の種類とその数

- 「文化遺産」 記念物、建造物・群、遺跡等
- 「自然遺産」 地形、地質、生態系、景観
- 「複合遺産」 文化・自然遺産両方の要件を満たす

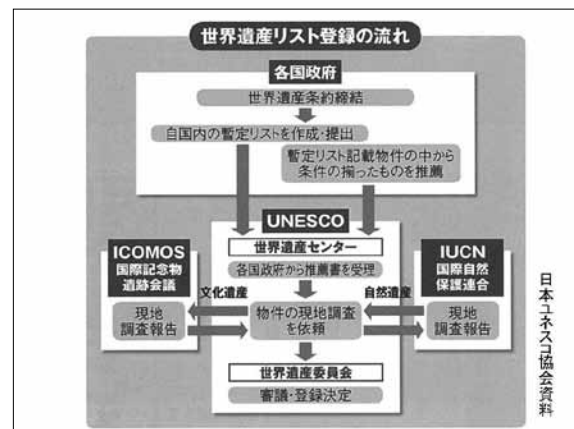
2013年10月現在 981件

文化遺産・・・759件
自然遺産・・・193件
複合遺産・・・29件

世界遺産の歴史

- 1945 ユネスコ(国際連合教育科学文化機構) 憲章採択
- 1948 IUCN(国際自然保護連合)設立
- 1959 ユネスコがアスワン・ハイダム建設計画で水没の危機にさらされたヌビア遺跡救済の為国際協力を要請
- 1965 ICOMOS(国際記念物遺跡会議)設立
- 1971 国連人間環境会議の準備会で世界遺産条約づくりが議論される

- 1972 世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約(通称世界遺産条約)の採択
- 1978 世界遺産リストへの登録開始
(自然遺産4件、文化遺産8件)
- 1992 日本、世界遺産条約を締結
「文化的景観」の考え方の導入
- 1993 日本で初の世界遺産が登録される(文化遺産2件、自然遺産2件)(法隆寺地域の仏教建造物、姫路城、屋久島、白神山地)



～登録への期間～

富士山を例に

- H18. 11 暫定リストの追加を国に提案
- H19. 1 暫定リスト 国がリスト掲載
- H19. 6 ユネスコ世界遺産委員会で掲載を報告
- H23. 7 文化庁へ県が推薦書原案を提出
- H24. 1 国から世界遺産センターへ推薦書提出
- H24. 8 イコモスの現地調査
- H25. 4 イコモスの評価結果の勧告
- H25. 6 世界遺産委員会での可否の決定

日本の世界遺産



暫定リスト(12件)



登録基準

- i 創造的才能を表す傑作
- ii 人類の価値の重要な交流
- iii 文化的伝統の唯一の証拠
- iv 歴史上重要な建築、景観の類型
- v 伝統的土地利用
- vi 信仰・芸術・文学
- vii 最上級の自然現象、自然美
- viii 生命進化の記録、自然地理学的特徴
- ix 生態系や植物群集の進化、発展の過程を示す
- x 絶滅のおそれのある種の生息地、生物多様性

完全性と真実性

完全性 Integrity

遺産の価値を構成する必要な要素が含まれている

真実性 Authenticity

建造物や遺産などの文化遺産がもつ本物の価値

文化的景観(Cultural Landscapes)

定義

文化的景観は文化的資産であって、「自然と人間との共同作品」に相当するものである。人間社会又は人間の居住地が、自然環境による物理的制約の中で、社会的、経済的、文化的な内外の力に継続的に影響されながら、どのような進化を辿ってきたのかを例示するものである。

■3つのカテゴリー

(i) 境界の明確な人間によって意図的に設計され創り出された景観 → 庭園や公園の景観



(ii) 有機的な進化による景観

自然環境との関わりのなかで現在のかたちが形成されたもの

- ・残存景観は、過去のある時点において、突然又はある期間にわたって、進化のプロセスが停止したもの。
- ・継続景観は、伝統的な生活様式と密接に結びついた現代社会において、生きた社会的役割を保持しており、いまだ進化のプロセスが進行しているものである。



ワット・プーと関連古代遺跡群
ラオス (ユネスコ)



コルディエーラの棚田群
フィリピン(ユネスコ)

(iii) 関連性による文化的景観

自然的要素が強力に宗教的、芸術的、又は文化的な関連性を有する場合



矢野健彦

イコモス・イフラ委員会の成立

- 1949年 IFLA/イフラ(International Federation of LandscapArchitects) ユネスコ傘下の団体として正式に発足
- 1954年 日本加入
- 1958年 景観・歴史的庭園及び遺跡の研究会設立
- 1964年 ヴェネチア憲章の成立
- 1965年 ICOMOS/イコモス活動が始まる

フィレンツェ憲章

- 1972年 11月 世界遺産条約採決
 1978年 「歴史的庭園国際委員会」がイコモス及びイフラにより制定
 1981年 フィレンツェ憲章の成立
- [特色]
 → 建造物と植物の複合物である歴史的庭園の特色を保存
 → “生きている記念物”であるため、ヴェネツィア憲章だけでは不十分だった
- 1992年 文化的景観の概念の導入が決定

日本における文化的景観

- ◆ 地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地
- ◆ 2004年文化財保護法改正(文化庁)により、我が国における文化財の新しい分野として確立された → 文化的景観・重要文化的景観
- ◆ 同時に景観法も成立(国土交通省) → 景観地区

農業景観が文化的景観として登録されている例

- | | | |
|--------|---------------------|-----------------|
| フィリピン | コルディエーラの棚田群 | (ii)(iii)(v) |
| メキシコ | リュウゼツランと古代テキーラ産業施設群 | (ii)(iv)(v)(vi) |
| インドネシア | バリ州の文化的景観～灌漑システム | (iii)(v)(vi) |
| ハンガリー | トカイワイン産地の歴史的・文化的景観 | (iii)(v) |
| ポルトガル | ビーコ島のブドウ園文化の景観 | (iii)(v) |
| コロンビア | コーヒー産地の文化的景観 | (v)(vi) |

■世界で登録されている文化的景観 84件

- 日本で登録されている文化的景観 2件
 - 石見銀山遺跡とその文化的景観 (ii)(iii)(v)
 - 紀伊山地の霊場と参詣道 (ii)(iii)(iv)(vi)

宇治茶の文化的景観

- 日本最初の農業文化的景観となる可能性

宇治茶の栽培法と製法



作者不明の弥三郎の石像

宇治茶の販売・喫茶など

東詰通圓の茶屋



宇治川兩岸一覽 上

基調講演

旅する世界遺産研究家、
アナウンサー
久保美智代 氏



私はアナウンサーをしているのと同時に、たくさん世界遺産を歩き回り、いろんな所で写真やビデオや資料を集めています。自分で言うのも何ですが、観光なら任せてくれと、お客さんの立場として思っています。

まず、世界遺産といってもイメージがなかなか広がらないと思いますので、いちばん最初にいろんな世界遺産を見ていただきます。これまで行った356か所の世界遺産の中で特におすすめ、選りすぐりの世界遺産50か所余りについて、音楽と私の写真でスライドショーを作ってきました。今日皆さん宇治に来て、ホテル代も飛行機代も払わないのに世界56か国見れちゃう、というお得なコーナーです。

(スライド上映 P.26 ~ P.29)

ちょっと世界を旅した気分になっていただけましたか？全部私が行って撮ってきた写真です。私、世界遺産の取材には体とお金も張っています。ピラミッドの写真なんてほとんど人が写っていませんが、これは、遺跡の入口の一番近いホテルに泊まって、オープン前からゲートに並び、オープンと同時にダッシュで走って撮りに行ったものです。

白川郷の雪の写真は、1月2月の週末だけライトアップされる時期に撮ったものですが、あの写真を撮るためにどれだけ大勢の人が高台の展望台で寒い中、三脚を立てて待っていることか。昼に行ってじっと何時間も待つわけです。ライトアップが青かったのは、青い光を当てているのではなくて、太陽が沈み暗くなる昼と夜の間の群青色に染まる空の色を映し出した雪の色なんです。その瞬間を過ぎたらもう撮れない、数分を狙って撮りました。

そんな私ですが、この和束のベルベットの絨毯のごとき茶畑を見たときの感動。何でこれが世界遺産じゃないのかと本当に思った瞬間でした。

私からは、まず世界遺産を皆さんに好きになっていただきたいと思います。世界遺産っていろんなところで話を聞くし、京都にもたくさんあるし、奈良にもある。でも一体どんな意味が

あるんだ、というのは意外に知られていない。実はそこが、私にとっての一番の魅力になっているんです。

先程杉尾さんのお話でもあったように、今世界遺産は981か所。たくさんあるなと思われたと思いますが、私は多すぎるとは思いません。日本の世界遺産は今17か所。ほかに富岡製糸場も、九州山口の産業遺産も、奈良の古墳群、高松塚古墳やキトラ古墳、大阪の仁徳天皇陵と、まだたくさん世界遺産になりたいと言っています。宇治もそうですが、手を挙げているところは多く、どれも私達日本人が誇る大切な文化財です。もし世界遺産条約に入っている約200の国や地域で10か所ずつ世界遺産があったら、それだけでもう2,000カ所です。981という数字はもちろん大きいですが、数で区切ると今世界遺産に入っているものだけが良くてそれ以外はだめなのか、ということになります。ですからまだまだ増える余地があり、私達が世界の素晴らしい自然や文化を知るきっかけとして、世界遺産が増えるのは大歓迎だと思っています。

さて、私がベスト5に上げるくらい大好きな世界遺産が、この国エジプトにあります。

世界遺産はこの国から始まりました。ちょっと想像してください。広大な砂漠が広がる中を世界一長いナイル河が流れ、河口部分にピラミッドがあります。砂漠の奥の方に、岩を削って作られたアブ・シンベル神殿があります。紀元前1250年頃にラムセス2世という王様が造りました。目立ちたがり屋のこの王様は、自分の建物には必ず自分の像を置きました。神殿の中には立像が8体並び、壁や天井にも黄金に光る見事な彫刻が隙間なく彫られています。神殿の目の前にはナイル河が流れ、朝一番の太陽が春分の日と秋分の日の年に2回まっすぐ差し込み、真ん中のラムセス2世像を照らすよう設計されています。3,000年も前に作られたこの遺跡と、素晴らしい建築技術、天文学や数学などの知識に、言葉も出ないくらい感動しました。

もう一つのドラマがこの遺跡にはありました。1960年、エジプト政府はこの遺跡がある場所に大きなダムを築く計画を立て、建設をはじめました。エジプトも近代化を目指した時期で、飲み水や農業用水や工業用水、発電のためにダムを計画しました。川は氾濫しなくなるので、人が定住し街を大きくすることができます。

一方で、アブ・シンベル神殿はダムの底に沈む危機を迎えました。皆さんだったら遺跡を守る方を採りますか？それとも国を発展させる方を採りますか？エジプト政府は国の発展を選びました。でも、今まで3000年以上残ってきた遺跡がこのまま無くなってもいいのか？…そこで立ち上がったのがユネスコです。全世界に対しキャンペーンを張り、日本を含めた約60か国以上が参加した大プロジェクトになりました。いろんな国々の人々が知恵を出し合い、大神殿の隣にある小神殿を縦横の細かいブロックに切り刻み、ダム湖のほ



とりの高台に人工的につくった岩場に一つ一つクレーンで持ち上げ、パズルをはめていくように移設しました。ですから、今のアブ・シンベル神殿をよく見ていただくとかすかに線が入っているのが分かるんです。

この取組がなかったらこの遺跡は水の底に沈んでいたのです。それまでは、素晴らしい遺跡、自然があっても、それを活かそうが殺そうがその国が決めることでした。しかし、このことがきっかけになり、3,000年も前から続いてきた遺跡はエジプト人だけのものではなく私達人類の大事な歴史であり、国際的な力を使って守っていくべきだと、1972年のユネスコ総会で世界遺産条約が採択されました。こうして始まったのが世界遺産なのです。最近では世界遺産になると観光客が来て地元が潤う、みたいなことばかりクローズアップされ、まるで観光の目玉のように扱われていますが、もともとこういう考え方でできたものなんです。そこに共感して、私は世界遺産の旅を始めました。エジプトの世界遺産も、今は夜ライトアップされ、光と音のショーが楽しめます。大きな街から飛行機で日帰りできてしまうので、泊まって楽しんでもらおうと戦略をきっちり立てているのです。

ここからは、私の大好きな世界遺産を、「えっ、こんな世界遺産もあるの?」と驚いてもらうべく紹介していきたいと思います。

世界遺産には、街の世界遺産、山の世界遺産、建物の世界遺産、遺跡の世界遺産、といろいろなものがありますが、街の世界遺産で一番好きなのはクロアチアのドゥブロヴニクという街です。真っ青な海を挟んだ対岸の、ブーツの形をしたイタリア半島に向けてによきによきと張り出した街の付け根に、非常に分厚く高い城壁が築かれています。ここをシャットダウンすると陸から敵は攻めてこられない、天然の要塞です。昔は大きく開いた海が玄関口となり、地中海を越え交易をして栄えた自治都市でした。真っ青な海に白壁とオレンジで統一された屋根の美しさから、この街は「アドリア海」の真珠と呼ばれています。

私がここを好きな理由はその美しさだけではありません。クロアチアは旧ユーゴスラビアの国の中でも豊かな国で、いち早く独立宣言をしま



ドゥブロヴニク(クロアチア)



した。独立を阻止したい政府が戦争を起こし、1992年に大きな内戦が起こります。街の人々は、アドリア海の真珠として有名なこの街にまさか爆弾を落とすまい、と思っていたのですが、戦争は全く容赦しませんでした。その年の暮れ、街に約2,000発近くの爆弾が投げ込まれ、約7割近くが全半壊します。内戦が終わった後、人々は、自分たちが誇りにしていたこの街をもう一度復活させたいと考えました。ユネスコやボランティアの

手を借り、海の中に落ちてもまだ使える石材を拾い上げ、自分たちが一番美しいと思っていた時代のままに復元、修復したのです。

どの世界遺産も、できた時の歴史や作った人はもちろん素晴らしいけれど、この時代までいろんな困難を経て守られてきたという事実があるんです。そこにも目を向けながら、このアドリア海の真珠を見てみると、ますます真珠が輝いて見えます。世界遺産というのは、ただ単に見た目の美しさや綺麗さや、素晴らしさだけでなく、その後ろにどんな歴史を持っているのか、どんなストーリーがあるのかを知ることで、もっと楽しむことができるのです。

中国福建省といえば烏龍茶の産地ですが、この土地に、周りは茶畑がある山の奥のほうに四角や丸や楕円形をした土の建物、土楼どろうがあります。一つ一つ仕切られている所が全て部屋で、約600人から700人が住んでいました。これを造った人たちは中国の北の黄河の近くに住んでいた漢民族で、住んでいる人は皆同じ苗字です。北方民族に追われて南に逃げてきて、人里離れた山に囲まれた所に移り住み、山賊や獣から身を守るため外側からはドアが一つしかない要塞のような家を建てたんです。昔は「多子多福」といってたくさん子どもを産み、子供が成長して戻ってきたらまた一族のためにさらに土楼を建てました。土楼は福建省界隈に大小含め2万軒あり、そのうち保存状態がいい40か所ほどが世界遺産になっています。今中国は農村部から都市部にどんどん人が移っているので、ここも過疎化して、もう何十人かしか住んでいません。そこで空いている家を民宿にして貸し出していて、私もここに泊まりました。

でも家の世界遺産に人が住まなくて、建物だけ残って、そこに魅力があるでしょうか？やはり人が住んでこそ、家の世界遺産だと思います。世界遺産を見に世界中から多くの人がやってきます。そこで物を売ったり、宿泊施設をやったりして経済が潤います。そのおかげでこの人たちは生業が継続され、ここを守ることができる。世界遺産はここに人を存続させ、住む人の絆も守っていると思います。そういう遺産もたくさんあるんです。

鉄道の世界遺産があるのを皆さんご存知ですか？オーストリアのゼメリング峠は、世界で初

めてアルプスを越えた鉄道なんです。

オーストリアは全部陸に囲まれていて、海が遠い。なので、ウィーンからどうしても海に行く道が欲しかった。でも、それを邪魔しているのがこのアルプスだった。当時ゲーガという設計者がこの山に入って、直線距離にすると20キロで越えられると言われていた道を、わざわざ倍の40キロ以上かけた線路を造りました。くねくね曲がる、ゆっくり登る線路を、山の起伏に沿うように造りました。

当時は鉄の時代で、鉄鋼業者が鉄橋を造れ造れと言っていました。でもこの人はあえて石造りの橋を造った。これを石造りにすることによって、アルプスの山や緑との景観が素晴らしく調和します。そこを走る1本のラインのようなこの車両。ゲーガは今から100年ほどまえに景観や自然との調和もしっかり考え造りました。このような遺産を産業遺産と呼んでいます。京都にもありますね、そっくりなインクラインが、産業遺産です。

文化的景観で私の好きなところはスイスのブドウ畑です。向こうの奥はスイスアルプスなんです。広い海のようなのはレマン湖で、南側はフランス。北側が世界遺産になっているブドウ畑のラボーというところ。ここは南側から差した太陽の光が湖に反射して、この斜面に当たります。あちこちにある石垣に、昼間太陽の熱が蓄えられ、夜それを伝えて土が暖められて、夜も暖かい。なので、このラボーには3つの太陽があると言われていて、甘くておいしい白ワインができる文化的景観として世界遺産になっています。

これに非常に近い世界遺産がハンガリーにもあります。ハンガリーのトカイワインの産地が宇治茶のモデルになるかと思っているのですが、12世紀から続くワインの産地で広大なエリアにブドウ畑があります。他にもブドウ産地は各地にありますので、世界遺産になるにはその中でもここでなくてはならないという理由が必ず必要なのですが、このトカイの場合は貴腐ワインです。貴腐という文字は、貴く腐る。このワインはわざわざ腐ったブドウを使って作られません。周りを大きな国々に囲まれて、いろんな国に支配されながら翻弄された国の一つですが、

17世紀、オスマントルコがやってきた際、ここの農家の人たちはブドウ畑を捨てて逃げなければならなかった。脅威が去ってブドウ畑に戻ってみると、畑はすっかり収穫の時期を過ぎ、大事なブドウも腐っていた。それでもいいからワインを作ってみようと思ったワインが、非常に甘くて香りの高い貴腐ワインになったと言われています。これ



は15世紀から続くワインセラーですが、ここで5～6年発酵、熟成させ、それからビンで数年寝かせておいしいワインが出来るそうです。このワインセラーも世界遺産の構成資産の一つになっていて、壁を見ると分厚い黒カビがずらっと並んでいます。カビがあることにより適度な湿度も保たれておいしいワインが出来る、おいしいワインを作るのに欠かせない要素の一つです。

もう一つあります。一見お墓のようですが、中に入るとワインセラーになっています。一般公開はされてなかったんですが、たまたまこのワインセラーの持主が奥まで通してくれて、出来立ての樽のワインを「これがうちのワインだよ」と出して飲ませてくれた。これがワインの文化なんだと思いました。普通、ワインの世界遺産というとブドウ畑と醸造所と、そこでテイastingする場所しか考えが広がらなかったけれど、それぞれの家庭のワインセラーがあるということなんです。つまり、これを含めたワイン文化が世界遺産として素晴らしかったのだなど。それを照らし合わせると宇治茶にも当てはまるんじゃないかと思っています。このときはワインを6杯くらい飲んでへろへろになっちゃったんですが、ぜひ宇治でも聞き茶をやってもらいたいと思います。

しかしながら、世界遺産になればそれで問題がないかというところではありません。爆弾一つですばらしい自然も文化も壊れます。戦争は今もずっとなくなりません。ダムを造る、家を造る大いに結構なことです。しかしながら、アブ・シンベル神殿のように新しく造るものの裏には壊れていくものがある。私たちはその両方を考えながら選択し、まちづくりをしていかなければいけない時代になっています。

地球温暖化の影響で年々氷河の氷が後退しています。もしかしたらゲリラ豪雨も台風もこの影響があるのかもしれませんが。象の象牙は、法律で取引してはいけないことになっていますが、お金のいる人が買うので地元の人が取ります。世界遺産になったからと言って未来永劫引き継がれていくことが保証されるわけでは決してありません。

アンコールワットも世界遺産ですが、アンコールというのは王朝の名前でワットというのが寺院の名前です。つまりアンコール王朝で、この遺跡というのは約600位散らばっていて、そのうちのいくつかがきれいに修復されて私たちが見られるものになっています。もう何百年もジャングルに打ち捨てられてしまった遺跡は、樹勢の方が強くて遺跡をどんどん壊しています。遺跡を巡る山道の木々にずっと赤と白のテープが張られていて、そこから向こうは立ち入り禁止で、今でも地雷が埋まっているんです。1992年に内戦は終わりましたが、ちょっと世界遺産から外れただけのところで、地元の人たちはまだまだ戦争の後遺症と戦っています。このように、今にも消滅・倒壊の危機にある世界遺産のことを危機遺産と言い、今44件あります。ちなみにアンコールワットは、国際的協力がうまくいっているのが危機遺産から外れましたが、実は今この数がすごく増えています。

ドイツの100万人都市にあるケルン大聖堂。普通日本でいう100万人都市の真ん中というところとビルばかりだと思えます。ケルン大聖堂の目の前はケルン中央駅といってメインの駅なんです。中心部にこの聖堂より高い建物がほとんどないんです。だからこの町に入ってくるとこの塔がシンボルのように燦然と輝いて見えます。でも、この世界遺産がかつて危機遺産になりま

した。この対岸をライン川が流れていますが、ライン川の対岸の、私たちが立っている所がちょうどリバーフロントになっていて、新しいホテルやオフィスビルが次々立ち並び、高層ビルを建てるという計画が立ち上がったんです。高層ビルが建つと景観は台無しです。もしそれを実行すると世界遺産リストから削除するとユネスコに言われ、結局ビルの高さを低くすることで危機遺産リストから外れたんですが、この問題はいろんな国や街で景観に対する疑問を投げかけた例になりました。

もう一つ、負の遺産というものもあります。日本でいうと原爆ドームがそうですね。世界遺産は歴史が華やかだったり見た目にすばらしかったり豪華だったりするものがほとんどですが、中にいくつか「もう二度とこんな悲劇を起こしてはならない」という人類への警告あるいは教訓となっているものがあります。ポーランドにあるアウシュヴィッツ強制収容所は忘れられません。約150万人のユダヤ人がここで虐殺されたと言われています。まわりは6,000ボルトの電流が流れていた鉄線が二重に張り巡らされています。ここから逃げようとしようものなら、高い塔から鉄砲で撃たれて大勢の方が亡くなったでしょう。20数棟の収容棟もきれいに残っていますが、収容棟の間のグレーの壁を「死の壁」と言い、ここに連れてこられたユダヤ人たちが背を向けてここに立たされ、銃撃を受けて亡くなっていった場所です。戦況が進むに従って、ここではとても殺害できないくらいの大勢の人が運ばれてきて、最も悲惨なガス室が造られました。若くて元気でまだまだ働ける人たちだけが家畜小屋のような収容棟に押し込められて、朝から晩まで強制労働させられます。ガス室にまっすぐ連れてこられるのは、子供、お年寄り、妊婦さん、病気の人、働けない人たち。服を全部脱がされて、髪の毛を刈られて、その髪の毛は糸として編んで布にして、ナチス・ドイツは軍服にしたり服にしたりして売ったりしたそうです。薄暗い空間に強制的におしこめられ、ガス管から噴出したガスが空気より重いので下から溜まっていく中、皆新しい空気を吸いたくて最後は山なりになって亡くなっていったそうです。その部屋が今でも残されています。その隣には焼却炉があります。最後はそこで焼かれ、焼け残った金歯までお金に換えられたそうです。

ものすごく悲惨な光景がここで想像できました。なんて人間は弱いんだろう。戦争はむごいんだろう。腹も立ちました。何でこれも残すべき世界遺産としてあるんだろうと思いました。その答えのヒントになる一文を見つけました。ユネスコ憲章の前文に「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」とあります。つまり、戦争は無知であったりねたみであったり、心の中の負の気持ちから生まれる。だったら心の中にとりでを築けばいい。でも心の中に石を積めますか？コンクリートを敷けますか？考え、思いつきました。「心の中に平和のとりでを築くこと。それは世界遺産を知ることです。」

ひとつひとつの世界遺産の歴史を見、築かれていった成り立ちを見ます。そうすると地球が物凄く美しく、愛おしく感じられます。世界のいろんな文化がすばらしいものに思えてくる。そこで、旅をし、現地の人暮らしを見、思いを聞き、友達になります。一度行かれた国の人と仲良くなると、その国がもしメディアにちょっとでも出たら親近感を持ってご覧になりませんか？仲良くなった人たちがある国と戦争したいと思いませんね。そうして心の中に平和のとりでを築くきっかけが、私の中の世界遺産なんです。世界遺産は地球を平和にするためにどん



どん増えていってほしいと、そんな風にも思っています。そしてその一つが、この宇治茶の景観だとしたら凄くうれしいですよ。

先日宇治市の山本茶園にお邪魔したところ、山本さんが大正時代から続くお茶を乾燥させるレンガの炉を紹介してくれました。

た。昔は下に薪をくべてベルトコンベアー式にお茶を運んで乾燥させたそうですが、今も現役です。山本さんは「修復するのにお金もかかるし、効率も悪いので実はどうしようかと思っているんだ」とおっしゃっていたんですが、もしこの炉を使った生産が終わってしまって博物館に飾られたらどうでしょう。やっぱりここで動いているからこそ、そのお茶の価値がある。これこそ残すべきだと思いました。

宇治田原町では、^{ながたにそうえん}永谷宗圓さんが炭をくべ何時間も何時間もお茶の葉を揉み、庶民にも飲めるおいしいお茶を作ったという歴史を知り、ああ、お茶って本当に深いんだと思いました。今まで356か所の世界遺産を見てきて、その素晴らしさを伝えることはよくしているのですが、世界遺産を作るというのは初体験なんです。作る世界遺産があってもいいじゃないですか。皆さんで、どこを世界の宇治茶の文化遺産として伝えたいのかというのを、それぞれの思いをあげていって、そこからみんなで作っていく。そんな世界遺産こそ、世界に誇れる素晴らしい世界遺産になりうると思っています。

私も子どもがいるので思うのですが、この文化を子どもにも伝えたい。景観も、製法も含めて。世界遺産って、変わらないところが素晴らしいと思ってるんですが、私がそれを見て思っで感動したこと、知った同じものを、今度は子どもたちが大きくなって感じたり、また新しく発見したり、またそれを孫に引き継いでくれたりできるようにと、次の世代に残さなければならぬと思っています。

時間がきましたので、もう一度最後にスライドショーをご覧いただき、私の話を終わりにしたいと思います。ご清聴いただきまして、誠にありがとうございました。

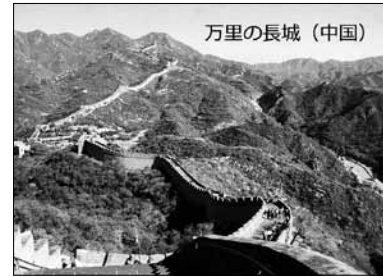
スライドショー



アブ・シンベル
アブ・シンベル



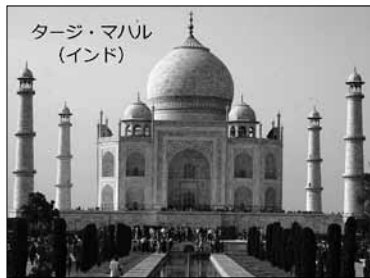
ピラミッド (エジプト)
ピラミッド (エジプト)



万里の長城 (中国)
万里の長城 (中国)



アンコール (カンボジア)
アンコール (カンボジア)



タージ・マハル (インド)
タージ・マハル (インド)



ボロブドゥール (インドネシア)
ボロブドゥール (インドネシア)



チチェン・イツァ (メキシコ)
チチェン・イツァ (メキシコ)



ストーンヘンジ (イギリス)
ストーンヘンジ (イギリス)



ベレンの塔 (ポルトガル)
ベレンの塔 (ポルトガル)



タヌムの岩絵 (スウェーデン)
タヌムの岩絵 (スウェーデン)



ローマの水道橋 (スペイン)
ローマの水道橋 (スペイン)



エル・ジェム (チュニジア)
エル・ジェム (チュニジア)



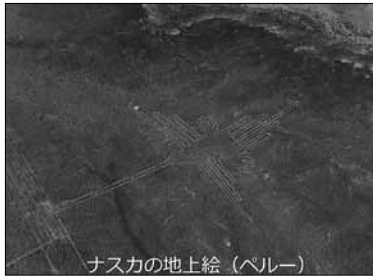
パルミラ (シリア)
パルミラ (シリア)



ペトラ (ヨルダン)
ペトラ (ヨルダン)



アテネのアクロポリス (ギリシャ)
アテネのアクロポリス (ギリシャ)



ナスカの地上絵 (ペルー)
ナスカの地上絵 (ペルー)



マチュピチュ (ペルー)
マチュピチュ (ペルー)



キンデルダイク (オランダ)
キンデルダイク (オランダ)



サン・スーシ宮殿 (ドイツ)
サン・スーシ宮殿 (ドイツ)



ハルシュタット (オーストリア)
ハルシュタット (オーストリア)



グレート・バリア・リーフ (オーストラリア)
グレート・バリア・リーフ (オーストラリア)



ハワイ火山国立公園 (アメリカ)
ハワイ火山国立公園 (アメリカ)



ミルフォード・サウンド (ニュージーランド)
ミルフォード・サウンド (ニュージーランド)



ハロン湾 (ベトナム)
ハロン湾 (ベトナム)



キナバル山 (マレーシア)
キナバル山 (マレーシア)



シュコツィアン洞窟 (スロベニア)
シュコツィアン洞窟 (スロベニア)



コモド島 (インドネシア)
コモド島 (インドネシア)



グヌン・ムル (マレーシア)
グヌン・ムル (マレーシア)



ユングフラウヨッホ (スイス)
ユングフラウヨッホ (スイス)



プリトヴッツェ (クロアチア)
プリトヴッツェ (クロアチア)



カッパドキア (トルコ)



パムッカレ (トルコ)



ウォータートン・グレイシャー国際平和公園(アメリカ)



ウォータートン・グレイシャー国際平和公園(カナダ)



ドゥブロヴニク (クロアチア)



ブラハ (チェコ)



グラン・プラス (ベルギー)



ブダペスト (ハンガリー)



イスタンブール (トルコ)



モン・サン・ミシェル (フランス)



アウシュヴィッツ (ポーランド)



華城 (韓国)



姫路城



紀伊山地の霊場と参詣道



原爆ドーム



屋久島



知床



琉球王国のグスク



法隆寺地域の仏教建造物



古都奈良の文化財



白神山地



石見銀山



厳島神社



白川郷



日光の社寺



古都京都の文化財



平泉

講演資料



1960年
エジプト政府はダム建設開始



↓

ヌビア遺跡
水没の危機

**ヌビア水没遺跡
救済キャンペーン**
ユネスコが世界中に呼びかける

＜ユネスコ＞
国連の機関。
教育・科学・文化で
世界平和に貢献



1972年 ユネスコ総会で
世界遺産条約が採択される。



ドゥブロヴニク(クロアチア)



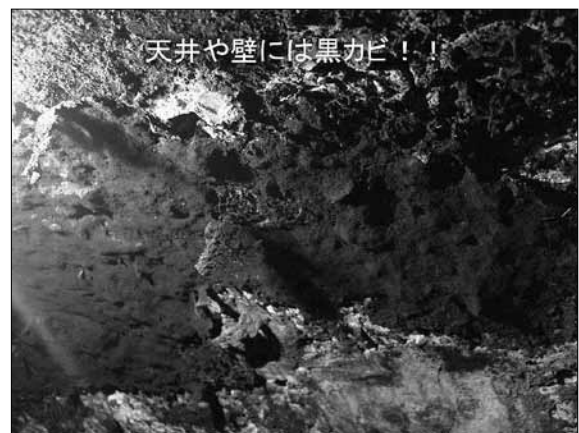
福建省の土楼(中国)

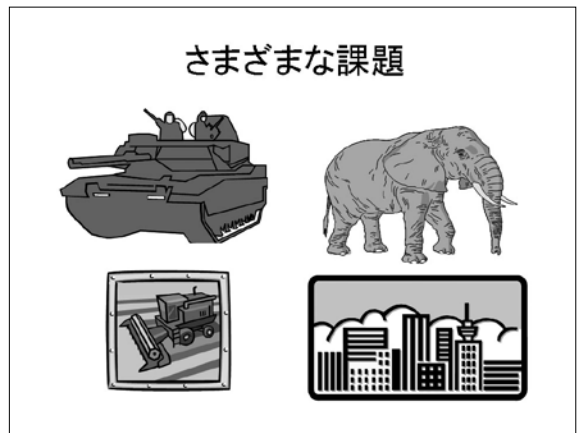


ゼムリング鉄道
(オーストリア)



水路閣
(京都市)









ユネスコ憲章・前文

Since wars begin in the minds of men,
it is in the minds of men that the defenses
of peace must be constructed.

戦争は人の心の中で生まれるもの
であるから、人の心の中に平和の
とりでを築かなければならない。



トークセッション

進行：森 正美（京都文教大学教授）

下岡久五郎（京都府茶業会議所専務理事、茶生産農家）

杉尾伸太郎（株）プレック研究所取締役会長、イコモス文化的景観国際学術委員会副会長）

久保美智代（旅する世界遺産研究家、アナウンサー）



森 教授：私は地元宇治の京都文教大学で教員をしています。専門は文化人類学で、人々の生活、文化そして地域の伝統、生業などについて学び、それをより広い世代のみなさんに知っていただくという企画に、学生たちと一緒に取り組んでいます。そのご縁で今回、宇治茶の取り組みにも参加させていただくことにもなりました。今日は皆さんと率直な意見交換をさせていただいて、会場にいらっしゃる皆さんとともにこの取り組みを進めていくヒント、きっかけをいただければと思っています。

久保さんもどうぞこちらにお掛けください。

トークセッションは、杉尾先生、下岡久五郎さんにもお越しいただいています。せん越ながら、私の方から、下岡さんのご紹介をさせていただきます。

下岡さんは、日本茶の最高峰、宇治茶を代表される茶農家であり、昨年秋の叙勲を受けられました。第46回農林水産祭では天皇杯をお受けになり、素晴らしいお茶を日々丹精こめてつくっていらっしゃいます。同時に日本茶・宇治茶の世界文化遺産登録検討委員会の委員、京都府茶業会議所専務理事を務めておられます。今、下岡さんからお茶を淹れていただいています。淹れていただきながら、お茶をご紹介しますか。

下岡さん：今日は宇治玉露を飲んでいただきます。世界遺産になる要因、条件をその味の中に全部入れておきますので、それを伝えてもらったらいいなと思っております。

森教授：私達だけいただいて会場の皆さまに申し訳ないのですが、今湯冷ましを作ってもらって、おいしい宇治の玉露をかなりたっぷり入れられました。



下岡さん：はい、10グラム分ぐらいです。

森教授：絞り出しのほうに入ってます。

器もきれいな京焼で、これは下岡さんのものですか？

下岡さん：これは清水焼ですが、歴史とか文化とか、お茶を飲むときには器から全部出てきますので、それだけ宇治茶には歴史や文化が秘められているということだと思えます。この玉露も、京都の高級玉露は宇治、京田辺、宇治田原も少しあるんですが、そこで作られた棚の玉露です。今は科学繊維の覆いが多くなりましたが、世界遺産のことを考えると「本ず」でわらを振ってそれを残していかないといけない。なかなか大変なことなんですが、そのようにして作られた玉露をこれから味わってもらいたいと思えます。

今お湯の温度を冷ましておきましたのですぐ出せるかと思えますが、お茶を飲むときに焦ったらどうしてもおいしくはならない。ゆとりをもって、時間をかけて話をしながらお茶を淹れるとか出すとか、その時機は体に覚えさせておいて、会話をしながら点てられたらいいなと常に思っています。

森教授：宇治茶の世界文化遺産登録推進プラットフォーム会議でも、地域の皆さんや茶農家さんに入っています。そのときにある茶農家さんが「宇治茶はご亭主が淹れる、男性がお客様に淹れて出すもんだ」とおっしゃって

たのですが、そういうものですか？

下岡さん：うちは、家に家内がいても、自分が家にいたら絶対お客さんには自分が淹れます。そのときに気持ちがイライラしていたらイライラしたお茶しか点てられないし、やっぱりゆったりとした気持ちで淹れること、たてることが大事だと思います。お茶は1年に1回しか採れないので、それをお客さんに100%味わってもらおうと、どうしたらそれをより味わってもらえるか、そう考えて常にお茶を淹れたりしています。

森教授：作るときから、飲まれる状況や、飲む方の顔を思い浮かべながら作られているということですね。秋の今頃、お茶はどうですか？

下岡さん：10月というのは蔵出しが始まる時期です。宇治茶がここまで守られてきた理由は、ただ作ってきたのではなく、新茶のときは新茶の香りを、昔は冷蔵庫がないので土蔵に入れて低温で保存し、蔵出しのころになるとお茶が熟成されて味がのってくる、というところも宇治茶の魅力といえますか…。そんなん話し始めたら1日で終わらないです。

森教授：今、下岡さんの話の中で触れられた宇治茶の種類として、特に覆いをした「本ず」について少しご説明します。地元の皆さんはご存知だと思うのですが、普通日よけに使ったりするような、よしで作った「よしず」を屋根のように棚に組んで、その上にわらを振るという非常に手間がかかる作業をされているんです。下岡さんのところの宇治田原だと、「こも編み」といって、皆さんおうちで手でよしを編んでその上にわらを振る。今茶農家さんは、そのわらのためにお米を一生懸命収穫されていて、稲作とも結びついているというお話でした。蔵出し茶のお話も、保管技術というか、お茶の葉の鮮度を保つための昔からの技術です。凄いと思うのは、夏を越えて傷むのではなく、さらにおいしくなるというところ。今日いただくのもそんなお茶かと思うのですが。

下岡さん：これでできあがりですが、少しなので。

ここに全部秘めていますので、この味を世界遺産にしてもらえたらいいかなと。

森教授：久保さんのお茶のイメージと違いますか？いただく前に久保さんが驚かれた理由をちょっと説明させていただきます。

ちょうど手の上にのるようなお茶碗の上から1センチくらいの所までお茶が入っています。多分皆さんが想像されるようなお湯呑の半分くらいで、そもそもサイズが小さい。ペットボトルでがぶがぶ飲むという印象とは随分違います。

久保さん：おいしいです。お出汁みたいな味がして、凄く香りがいいです。私、中国の福建省にある岩茶の産地、武夷山^{ぶいさん}という世界遺産に行って茶農家さんや茶工場でお茶を淹れてもらったことがあるんですが、そこでは熱々の湯を沸かしながら淹れていました。宇治茶はまずお茶の温度が低い、冷まして淹れるというのに驚きました。

下岡さん：温度が高いと渋みや苦味の成分が出てくるんです。いいお茶になるほど温度は低めの方がよくて、人肌くらいの温度で出すと旨みの成分・テアニンという成分が出てくるので、温度を下げた方がおいしくいただけます。

森教授：杉尾先生、今召し上がっていただいて味はどうですか？

杉尾会長：今までにも味わう機会があったのですが、やはりその都度違いますね。人柄が出てくるというのか、別の所でいただいたお茶とまた違うなど感じます。非常に深いですね。

森教授：先程下岡さんが、甘味の成分がテアニンだとおっしゃったのですが、例えば世界遺産登録に向けて魅力を伝えるときに、このお茶には特別な味わいがあるとか、特別なものが含まれている、といったことは重要なポイントになりますか？

杉尾会長：なるとは思いますが、世界遺産の登録になるそのものはいわば不動産で、直接的には味を登録するわけにはいかない。ただ、全体を評価する上で重要なポイントになります。

森教授：例えば「本ず」の棚や茶畑は対象になってくるということですか？

杉尾会長：はい、その通りですね。

森教授：今もしかして二煎目の用意をしてくださっていますか？玉露はだいたい三煎目くらいでまでですか？

下岡さん：このお茶やったら二煎も三煎も四煎もいけます。一煎目、二煎目、三煎目のそれぞれの味を味わうのも楽しみの一つですね。

森教授：他の茶産地に行くとよくわかるのですが、宇治茶って、玉露があったり、お抹茶の原料のてん茶があったり、かぶせ茶があったり、煎茶があったり、多種多様なお茶があることが魅力だと、宇治茶の一ファンである私は思います。飲

むたびに味わいに変化して深まっていく、味の文化というか、飲み方の文化と
いうか。

下岡さん：お抹茶は歴史が古いですし、お抹茶から始まって、煎茶、玉露とが、この京
都宇治で発明されて全国に発信されている。緑茶の原点がここにありますし、
ながたにそうえん ほいろ
永谷宗圓生家の焙炉のように、製造する原点もこの宇治地域にあります。新し
い機械は静岡で作られていますが、最初は焙炉で揉んだ。元は全部宇治から発
信していると自負しています。

森教授：それで、世界遺産登録検討委員会では「日本茶のふるさと」という言葉をコ
ンセプトの一番はじめに掲げているんですね。私、世界遺産に関わりませんか、
とお話をいただいたときには正直ぴんとこないところがあって、宇治でいろん
な茶農家さんから話を聞きました。そして、宇治茶はこんなにおいしいのに、
生産面などいろんな意味で厳しい状況におかれていますので、「すいませんがそ
こまで余裕がない気がします」と申しあげたこともあります。茶農家さんにとっ
て、こうした「世界遺産登録」というのは、実際どうなのでしょう？いきなり
難しい質問ですが、個人的なご意見でも結構です。

下岡さん：メリットがないということは言いませんし、世界遺産になってほしいと常に
思ってます。景観や昔の茶工場の街並み、お茶屋の間屋街などを、これからど
うやって残していくのかという難しい問題があると思います。また高級玉露な
りてん茶を生産しようと思ったら、特別いいものはやっぱり「よしず」とわら
が必要ですが、これもいつまで誰が作り続けてくれるんだという点も問題です。
また先程和東の茶畑の景観も映っていましたが、煎茶も、等高線状に広がった
急傾斜地の茶畑をどうやって管理し、若い人たちに伝え守ってってもらおう
のかという難しい問題もあります。宇治茶の日本の生産量に占める割合は3%ほ
どで、簡単に言え
ば宇治茶が世界遺
産になれば「幻の
お茶」になると思
います。宇治茶の
単価も上がり生産
者はそれによって
潤います。お茶を
高くさえ買っても
らえたら、どんど
ん伝えられていく
というのが簡単な



考え方ですが、それだけでなく遺産を守る者に対し、おかげをこうむっている者、いない者も、お茶に関係する業界も含めて何かでお返ししていくという気持ちを持たないと、守っていけないと思います。

森 教授：ありがとうございます。私達が写真で拝見しているときれいですが、あそこで一年中寒い日も暑い日も朝からずっと作業する、そういうご苦労があってお茶ができていますし、「本ず」というのは本当に相当の手間がかかるもの。学生と一緒に宇治の茶農家さんにお邪魔したとき、ほんのちょっと手伝ったのですが、5分で根を上げる学生もいて、本当に重労働なんだと実感しました。京都府からもらった資料によりますと、府内の茶農家は平成12年に1,330戸あったのが、10年後の平成22年には825戸となんと10年で4割も減り、3分の2になってしまった。さらに深刻なのは、60歳以上の農家さんが65%以上ということ。世間一般に、高齢化率が3割超せば超高齢化社会ですから、65%ということは、ほとんどの方がご高齢でも何とか踏んばっていらっしゃるという状況です。生産面積は逆に0.9ヘクタールから1.3ヘクタールに増えていますが、茶農家が減る中農家さん同士で助け合い、栽培面積を減らさないよう、茶園が荒れないよう、少しでも多く栽培しようとされている現場の状況があるわけですね。

生産規模は、鹿児島が平均3ヘクタールほど、宮崎が平均2.2ヘクタールほどと非常に規模が大きいのに対して、宇治茶は手間をかければかけるほど良い質のお茶ができると。これまで近代化して規模を拡大して収益性を上げるということをやってきた日本農業の流れとは、一見相容れないようなことをやっていけないといけないというのが難しいと、お話を伺っていて思います。

杉尾先生、こういう農業文化的景観というのは、世界遺産の中でも日本初になるかもしれないというお話ですが。

杉尾 会長：実際に携わっておられる農家さんのお立場からすると非常に難しいと思いますが、先程の「本ず」による栽培など、特殊な手間暇のかけ方によって消費者も高く買っていただく、ということが考えられるのではないのでしょうか。私の友達も建設業をたたく農家をやっている人がいます。お米はその友達から無農薬のものを買って、スーパーで買うよりは、はるかに高いのですが、おいしいんです。お茶もそういう付加価値を付けられると思います。

ただ、いろいろなお茶に関連する製造工場みたいなものを見せていただいたんですが、それをそのまま全部残すというのは難しいかと思います。ヨーロッパでもお城やなんかの維持管理はみんなそれぞれ苦労しているようで、レストランを開いたり、宿泊施設、ホテルとして活用したりと色々な方法を探っており、それによって経営努力で凌いできているというのが文化財保護の現状だと思います。日本に限らず世界中でそうなのだと思いますが、特に生きている農業生産地の保護というのは、今のような方法しかないかと思います。政府のいろいろな援

助があるとなおいいとは思いますが、基本的には、消費者がそれをよく理解して、「高くてもいいから買しましょう」という心意気を示していかないといけないのだと思います。

森 教授：いいものが消費者に手に届く仕組みという意味では、茶農家さんたちにも「これを飲んでもらいたい」というものを作っていたらいい、消費者もそれをいただけたらいいということが一番いいと思いますが、それがなかなか難しいということですね。あと、今お話にでてきた製造工場などは、結構共同化されている所もありますが、宇治茶の魅力としては、自分の茶園で作られたお茶を自分のところで荒茶にするという、自園自製というやり方が、魅力的で个性的なお茶を支えてきた。ただそれが、今先生がおっしゃったように、全部残すのは非常に難しい。

海外の世界遺産の例を見ると、私たちの文化財の概念を少し変えないといけないと思う程度にまで活用が進んでいると思うんですね。守るために積極的に魅力を使っていく。本物は変えないけれど、今事例をあげていただいたレストランや宿泊施設などのように、新しい形で使っていく。夏にイギリスに行ったときにリバプールに寄ったんですが、移民船が出ていました。そこは港一体が世界遺産になっているのですが、その倉庫群は全部ショップになっています。リバプールの人にとっても、ウォーターフロントで買い物したり家族が楽しんだりする憩いの場所になっている。ここまでやっちゃうんだ、というくらいですが、古くて人が来なかった倉庫群が、新しい命を与えられてる、という感じです。

そういったモデルが、宇治茶に関わる地域の中で実際作っていけるかどうかということも、宇治茶の生産農家の方、お商売をされている方以外の市民の方が、自分たちの地域にどういう場所が欲しいのか？ どういう文化を残していきたいのか？と思われるかとも大きく関わってくると思います。

その点に関して久保さんはどうですか？ 観光じゃないと言いながら久保さんはあちこちの場所で楽しんでらっしゃるように見えたんですが。

久保さん：観光じゃないけれど、観光は凄く大切なんです。と言うのは、恐らく私は世界遺産がなかったらアブ・シンベルも知りませんし、宇治茶も知りません。私が紹介したような場所には出会うことがなかったし、出会ったとしても表面的な美しさだけで、なぜそれが世界遺産なのかということを追求することすらなかったと思います。「見せる、知らせる」ということが一番大事なことで、お茶もそうですが、いいお茶を提供する、買う人や飲む人が「これがいいお茶なんだ」と分かることが大切。

急須でお茶を淹れることすら知らない若者もいる時代に、宇治茶を世界遺産にすることによって、もっと広く日本のお茶文化や飲み方、作り方も併せて知っていきるといった素晴らしい可能性を感じています。私自身、覆下で作るとか、か

ぶせが何日で玉露が何日かぶせたらできるということをしらなかつたんですが、それは日本の農業の文化の中で作る所を今まで見せてこなかつたからだと思います。できたものだけを買って飲むと。でも世界遺産は違ふんです。お茶ができた歴史から、作り始めた工程、そして味まで全てを見てもらって、五感を使って味わってもらうのが世界遺産だと思つているので。一部分一部分だけでなく、トータルに考えると、世界遺産に対する期待や可能性、アイデアがもっといっぱい出てくると思ふます。

森 教授：下岡さんがおっしゃつたように「本ず」で作つたおいしいお茶を飲んでもらいたい。でも正直言つてなかなか飲んでもらえない。下岡さんの周りの方は飲んでると思ふんですが。例えば、こんなことを言うとお茶の業界の方はショックを受けられると思ふのですが、「抹茶は甘いものだと思つていました」という学生が、私の大学でも実は増えています。宇治の大学なので地元の子もいますから、そんな劇的にいるわけではないのですが、何人かいて。やっぱり抹茶スイーツが大変人気なので、お茶に入る前に甘いものをいただいていて、それがお茶だと思つている。そういう意味では情報発信が非常に重要だと思ふます。

久保さんは世界遺産を訪ねられるときにどうやって情報を集められているんですか？ インターネットでしょうか。

久保さん：はい、インターネットで調べたり、あとテレビでも最近よくやつているのでテレビを見たり雑誌を見たり、本を借りてきたり。でも981か所もあるので、とてもガイドブックに載つていないような世界遺産も山ほどありまして、そこに行くのが面白いんです。直接現地のホームページを見て、現地でどうやって観光するのか、何時に開いているのか、一体何が見られるのかということをして直接英語でやりとりをして計画を立てたりします。現地ではインフォメーションセンターでさらに詳しい情報を聞いてさらに深く入っていきます。

森 教授：私が今日この席に座つているのは、世界遺産にするために地域の中で宇治茶を盛り上げていこうという、京都府がコーディネートしているプラットフォームというのがあるんですが、そこに参加したのがきっかけです。プラットフォームというのは基盤という意味で、地域の基盤を作つるという意味ですね。先程申し上げた茶農家さんが入つていたり、茶商さんが入つていたり、あと行政の関係者や関係団体も参加しています。久保さんも世界遺産研究者としてそのメンバーでいらつしゃいます。

そのプラットフォームの中で、宇治茶生産の景観を維持するための戦略を考えないといけないとしていまして、杉尾先生にアドバイスをいただいたり、下岡さんからも茶農家さんとしての立場からご意見をいただきたいんですが。

例えば、なかなか維持しがたい茶園をどうやって荒廃させずに守つていくの

か？下岡さんがおっしゃったんですが、新しくお茶を作りたいという若い人たち、後継者をどういうふうに育てていかなければいけないか。そういう課題は随分前からあったようなんですが、ここにきて、高齢化率65%ということもあって、待たなしになってきています。世界遺産登録ということの一つの取組の目標としたときに、それが重大な問題として前面に出てきています。

それから今、久保さんにどういうふうに情報を入手されていますか？とお聞きしたのは、戦略の柱の2つ目に関係があります。宇治茶のブランド価値をきちんと発信しないといけない。どうも「宇治茶っていうのはこういうものなんですよ」となかなか簡単に説明できていないということもあります。例えば職人氣質の茶農家さんだと、「おいしいものはおいしいと言わなくてもわかる」となっています。実は今、「いろいろ教えてもらったことで、おいしさが倍増する」という人たちが世界中で増えていて、そういうときに新しいブランディングやマーケティングが必要じゃないかという話が出ています。それと一方で、登録委員会に関わっている先生方は、宇治茶の歴史に関する資料は散逸していて大変だと苦労されているようです。きちんとした研究や資料を残しておくような機能も作っていかないと、次の世代に残っていかないんじゃないかという話も出ています。

今日お茶をいただいでいて、お茶がおいしすぎてしゃべるのがもったいなくらいなんです。口に旨みが後まで残るので、そういったものが感じてもらえるような、先程久保さんが「五感で」とおっしゃいましたが、感動と共感の場を作って宇治茶のファンを増やしていかないとはいけません。とは言え、お茶を何度のお湯で、みたいな話をされていると、一般の方では家では難しいと思われるのではないのでしょうか。一般の方にはそういったことがわかりにくいと感じられるかもしれません。観光といっても、ワインのツアーなんかと一緒に思うのですが、写真で拝見してもただのブドウ畑、茶畑もただの茶畑。なのでそこをどういうふうに、深く味わっていただくかという仕組み作りも必要ではという話が出ています。

それ以外に、新しい時代に合ったお茶づくりが必要といったことや、それを支えていくために、文化というのは、自治体で区切られているわけではなく、そういうものを越えてつながっていて、そういう中でどうやってうまくやっていくのか難しいという話も出ています。プラットフォームの枠組みも、京都府全体としてやっている事業で、特に行政をまたいで山城地域の宇治茶を支えられてきた方々が参加されているものです。

先程下岡さんと控室で話したんですが、下岡さんは海外へも宇治茶を持って行かれたとのこと。そのときのお話がいいな、と思ったので、詳しく教えていただけませんか？

下岡さん：2年余前の話なんです、フランスに行ったときに宇治茶を持って行きました。フランスのアジア映画祭に何百人かの人に来られるということで、スタッフ全員にお茶と茶器を持って行ってもらって、お抹茶と玉露、水出し玉露の接待をしたんです。第一印象に感じたのは、フランス人って物凄く歴史と文化を大事にする。自分で茶筌を使ってやりたいとか、自分で急須で淹れたいとかそういう気持ちがあるんです。フランスに帰化された、日本の歴史や文化を分かっている人が通訳だったんですが、お茶の和みやまるやかさ、「こく」といった言葉を、フランス語でうまく伝えられるのかな、とっていたんですが、うまく伝わっていたようでした。フランスの方々、文化などを吸収したいという気持ちが凄くあったんだと思います。

例えばペットボトルで宇治茶が流通していけば、歴史も文化も何も無くなりますので、外国の人には、歴史と文化と一緒に飲んでもらわないことにはだめだと思うんです。自慢ではないですが、自分のつくったお茶や高級茶を、どんな人に飲んでもらっても絶対「おいしい」と言ってもらえるように、自信を持って淹れています。フランスの人もだからおいしいと言ってくれたんだと思います。

またフランスとは全然違う話ですが、以前お茶になじみのない学校の生徒に体験してもらってわかったことがあります。30人ほどの生徒がやってきた時、急須でお茶を淹れるのにそんなにたくさん的人数を想定していなかったので、湯呑や茶碗、紙コップなどいろんなものにお茶を注いで、それぞれほんの少しずつだけが入りました。底に3滴ほどの、こんなんがお茶か、という感じだったんですが、いちばん最初に飲んだ女の子の、もう顔を見ただけで分かりました。凄く感動していて、今まで飲んだお茶の中で一番おいしいと。宇治茶ってこの3滴でも感動させることができるんだと。私は、どんな人にも宇治茶をおいしく淹れる淹れ方なり、宇治茶の魅力を教えることができる、と自信を持ちました。

私には世界遺産になるプロセス自体は何もわからないので、先生方がんばってもらいたい。我々は宇治茶の良さを提供しますので、よろしく願います。

久保さん：世界遺産になるためには、熱意が凄く大事なんですね。一つに地元の盛り上がりがいかに大事かということが言われています。昔は別に宇治茶を文化遺産にしなくても守られていました。今は世界遺産という枠組みで守らないと無くなってしまいそうなところにきているので、世界遺産にしましょうという話になっているのだとも思うんです。

例えば、アメリカのイエローストーン国立公園が初めて世界で国立公園になったときに、何故なったのかというと、アメリカは開発の国で、守らないと自然は守られないから。世界遺産も同じで、「世界遺産にしたらくさんの観光客が押し寄せて自然も破壊されてしまうんじゃないか」とよく聞かれるんですが、確かにそういう側面もあるんですが、でも今や海の底から月まで行ける時代です。手つかずの素晴らしい自然や、手つかずの古い街並みを壊すことはあつという間、

簡単にできます。1972年に世界遺産条約ができるべくしてできた、その世界遺産は時代を経るとともにこの40年形が変わっていき、世界遺産がどんどんブラッシュアップされていって、宇治茶もまさにその時代に入っているんじゃないかと考えています。

今日言いたかったのは、宇治茶が世界遺産になるということは、「日本の中の宇治茶」ではなくて、「世界の中の宇治茶」になるということなんです。どうしても「日本の中の宇治茶」と日本人は考えてしまうのですが、世界の人に価値を認められて世界遺産になるものですから、常にそこを考えておく必要があると思います。日本人は誰もが、宇治茶は知っているつもりになっていますが、世界ではまだまだ知られていない部分がたくさんありますので、別のアプローチで世界の人から支援をもらうため、世界遺産を目指すことで、活路を見出すのもありかと思っています。

森 教授：さきほど下岡さんのお話にあった、フランスの通訳の方は大変優秀な方だったので、そういった日本の価値観も含めて伝えてくださったのでしょうか。例えば世界に伝えていこうと思うと、宇治茶の文化を伝えるきちんとした言葉を選び、そしてそれを伝えていくことが必要ですし、それを伝えていくことができる人を育てていかないといけないし、それを地域でやっていかないといけない。もし地域の中にそういう人がいなければ、宇治茶ファンの方は日本全国、世界中にいます。下岡さんが語ってくださるこのお茶の魅力を語れる人を一人でも二人でも増やしていかないといけません。でなければ、茶畑が大変なことになってしまいますし、下岡さんに毎日毎日あちこちで伝道してもらうわけにもいけません。

久保さん：紀伊山地の霊場と参詣道には「語り部さん」という方がいらっしゃって、その方が道案内や歴史を語ってくださいます。アメリカの国立公園には、パークレンジャー、別名インタープリターと呼ばれている人々がいます。自然は言葉を発せないから、間にインタープリターが入って、自然の言いたいことやその魅力を、人間の言葉で来場者に伝えてくれるという役割を果たしているわけです。そういう、伝えることのできる仕組みを作っていくというのも、魅力発信ではすごく大事なかなと思います。

森 教授：下岡さんの話と、また、久保さんの、戦争の話や平和への願いといった、世界遺産に込められた思いについてのお話も伺いましたが、お茶を飲みながら喧嘩できないですね。お茶の時間、お茶の心というのは、凄くそういうことにつながると思っています。

石見銀山も最初はすごく厳しいコメントがついたんですが、環境への配慮が精

神的だった、ということが世界的に最も評価され、最終的に世界遺産に登録された
と伺ったことがあります。杉尾先生からご覧になっていて、宇治茶の持つ、グ
ローバルな価値を訴えていく力はどうでしょうか？あるいは、宇治茶はどういう
ステップを踏んで世界遺産に向かっていけばいいか、という点を、今までのやり
取りを踏まえてご助言いただければと思うんですが。

杉尾会長：先ほど、「資料が散逸してしまっ」という話がありましたね。お茶を生産し
たり、販売したりされている人たちはご高齢になられている人も多いと思いま
すが、これは、まだまだ今のうちなら、そういう人からも聞き取りもできれば、
蔵の中に埋もれている文書もいっぱいあると思うんですね。それを学術研究の
機関としてぜひ掘り起こしていただいて、それをまた紹介していく、というこ
とも必要だと思うんです。また海外の研究者も非常に興味を持つと思うので、
そういう人たちを招いてお茶の魅力や茶畑の良さというのを肌で感じていただ
いて、だんだんシンパとか宇治茶のファンを増やす。イコモスの評価する、
うるさ型の先生たちにも理解してもらって味方に付けてしまう、というふうに
していく必要があると思います。

一つだけ申し上げたいのが、舞台後ろの背景が非常に熱意がこもっていてよく
できていると思うのですが、実際の茶畑と違うと思うのは、電柱が1本もこの
背景にはないんですね。イギリスの「ランドスケープアーキテクト」という職業
領域、私もそういう職業領域ですけども、その中にシルビア・クローという女性
がいますね。その人が「ワイアースケープ」、ワイアー、針金ですね、「針金の
風景」という本を出しているのですが、やはり電線が張り巡らされている風景は
相応しくない。霜除けは仕方がないとしても、何とか、電線、電柱をなるべく地
中に埋めることができればと。今関西電力さんは大変かもしれないですが。

森教授：市街化区域でも電線地中化は大事業になるかと思いますが、こういう農地で
電線地中化となれば相当新しい取組にはなると思います。私が鹿児島を訪れた
ときに、防霜ファンは、この茶畑は赤、この茶畑は緑と、かわいらしいアクセ
ントになってたんですが、確かに電柱は難しい問題ですね。そういうのはやは
り景観上大事なんですか？

杉尾会長：そうですね。やはり人間の本能みたいなもので、感じるのかもしれないですね。
何か煩わしいって意識があるんでしょうね。展望地点とか、眺望地点を決
めて、なるべくその視点場からだけでもその辺の工夫をされれば、より良くなっ
ていくんではないかなと思いました。

森教授：私は四国の四万十に関わらせてもらっているんですが、そこは実際に日本の
重要文化的景観に選定されていて、今問題になっているのが、携帯電話の基地

を作るときにどういう色合いで、どういう風にカバーして景観を壊さないようにするかということ。これが必ず委員会の議題にあがってくるのですが、先程の例にあったように、神殿も移築して立て直せるわけですから、技術を使って現代的なものとうまくやろうとすればできるのではないかと思います。でも行政の方も含めて、そこまでやろうと覚悟するのか。やっぱりどの順番でどこを優先してやっていけばいいのかということだと思っただけです。

先程下岡さん、はっきりおっしゃらなかったんですが、世界遺産になるということはいろいろ規制がかかってやりにくいのではないかと。例えば、極端な話、防霜ファンは見苦しいのでなし、ということになれば、茶農家さんも「えっ、ちょっと」となりますよね。今年春先も夏場も大変な霜でいろんな所で被害が出て大変な思いをされたそうですし。

下岡さん：防霜ファンなしでは絶対お茶の栽培はできませんわ。

森教授：特に山では。

下岡さん：棚があっても、防霜ファンと両方使われている所は多いですから、棚がなかったら防霜ファンなしにはできないですね。景観だけ守って、そこのお茶畑は収穫なしで景観を守るために置いておくのであれば別ですが。

杉尾会長：防霜ファンに関しては、防霜ファンを繋いでいる線は黒い線で割と目立ちにくいですし、防霜ファンだけだったら目的がはっきりしているので、景観の一部という解釈ができるだろうと思います。ただし、電線に関しては別に地上においておく理屈はないです。ヨーロッパの各都市も、お城のまわりも電気は使っているわけですから。防霜ファンまで除かないと無理ですよということは、私は一切申し上げません。

森教授：生業として残していくことと、文化的な価値をいかにうまく両立していくのかということですね。それから、今の話でも、市民にとって景観の美しさといったわかりやすさがあると思うのですが、宇治茶は、例えば寒冷紗がかかっていますが、これが景観としてああ美しい、というふうにはなかなかないだろうと思います。ただ、先程のテアニンの話を聞けば見え方も全く変わってくると思います。

宇治茶に関わらせてもらっていて難しいなと思うのは、この宇治茶を繋ぐ大きなストーリーを、世界遺産の中でどういう方向性で考えていくのかということですね。杉尾先生、山城地域を回っていただいて、何か考えがおありになれば、今後の活動のために教えていただきたいのですが。

杉尾会長：宇治茶の文化、あるいは宇治茶の生産から販売に至るまでの一連のもの、そのものが文化であって、また抹茶の文化である茶道はさらに広がっていて世界中で知らない者はいないですね。お茶の作法についてもみんな興味を持っていて、いつか自分も習ってみたいと思う日本人も多いですね。そういう文化の根っこを持ちながら、生産の景観、農業生産の景観を世界遺産に、という流れは決して不可能なものではないと思います。

ただ、やはり先程申し上げたとおり、見た目の景観も評価する側からすると重要なので、全部の生産地を考えるのではなくて、ある要所、要所の見る場所、さっきおっしゃった「視点場」という言葉がありますが、見る位置を定めてそこから見た風景に関しては、なるほどなと思わせる場所があつていいと思います。

そこに「本ず」というのがあって、「本ず」というのはこういうものなのかと見せるものが現場にもあるといいなと思います。そのほかにもビジターセンターがあつたり、映像による解説があつたり、インタープリターがいて解説をしてくれたり、細い道も多いですからそこにどんどん乗用車が入ってくるのであれば生産農家にとってもえらく迷惑なことです。それをどうやってさばくのかといったまちづくりも含めて、トータルで考えていく必要がありますね。

森教授：山城地域の市町村一つ一つの特徴という、茶種の特徴というか茶産地の特徴になっているところが凄いなと思うんですが、そこをどう超えて協力して連携していくのかということが鍵になると思います。実はプラットフォーム会議の中で宇治茶ファンクラブを作った方がいいという話が出ていまして、久保さん、実際にどんなファンクラブでどんな感じであれば入りやすいですか？

久保さん：もう私入るのが前提ですか？まず、ファンクラブ会員特典として、おいしい宇治茶が飲める。自分でも淹れられるようになりたい。で、友達にも淹れてあげたい。ちょっと茶師にもなってみたいというか。どうですかね。

森先生：茶師というのはお茶をあわせてブレンドする人ですからインストラクター、日本茶インストラクターの勉強をされるということですか？アドバイザーから始められて。

久保さん：すごく勉強して、学んで免許取るとかまではいなくて、もっと日常で楽しい雰囲気を持ちながらそういうものを身につけられている。なぜかお茶の基礎知識を学んでいるみたい。

森教授：じゃあ例えば、下岡さんのような宇治茶の匠にお越しいただいてファンの集いをやるみたいな感じですかね？そこに来ればお茶の淹れ方も習えて、お茶の話も聞けてみたい。

久保さん：今の時代は口コミなんです。私、ブログやインターネット、フェイスブックをやっていますが、自分が見て自分が味わって聞いたことを本当に良かったと書くと、みんなすごく興味を持ってくれて、私もそんなだったらやってみたい、食べてみたいと言われます。それで良かったらどんどん拡がっていくので、それがファンクラブの会員を増やすことになり、ひいては宇治茶ファンを増やすことになるのではないかと思います。

森教授：それでは、早速始めないといけませんね。下岡さんますます出番が増えそうですが。

下岡さん：この間も「宇治茶の魅力を30分で語ってくれ」と言われたんですが、そんな30分で語れるわけがなく、その後は私は時間があったので、家にお茶を飲みに来てもらったらこの続きの話をします、と言いました。いろいろ伝えたい話があります。今日も私の時間が空いていたらまだまだ伝えたい話があります。

宇治茶の良さ・魅力をいかにして、いろいろな人に伝えていくかということですが、伝える前にお茶はこんなにおいしかったんだ、というのを味わってもらって、それから伝えていければと思います。

先程のフランスの話ではないですが、フランスのお茶屋さん・世界のお茶300種類を扱っているお店に行った時、この玉露を出したら、「これが本当の宇治茶ですか」と言われました。そこには日本緑茶が置いてあったのですが、我々から言わせると保管状況が悪くて、お茶が傷んでいたんです。それから1か月程して、ほんものの宇治茶を知りたいということでフランスから宇治に来られたんです。そういうことをもっと発信して行って、宇治茶を世界にも発信できたらと思います。

日本でも、もっともっと宇治茶を飲んで欲しいのですが、このごろは急須離れになってきて、急須の良さが分からない。ペットボトルが流行していますが、そこには歴史も文化もないのでやはり、いろんな意味でお茶の文化というか、抹茶も玉露も煎茶も含めた歴史と文化と一緒に飲んでほしい、そんな人を増やしていきたい、そんなふうに思っています。

森教授：杉尾先生からは「文化を持っている宇治茶」とおっしゃっていただけなのですが、久保さんの発表の中でも、子どもたちにも伝えていきたいとお話されていました。飲んでおいしいと思える味覚を現代人は失ってきている、ということもあるので、宇治でも、山城地域も、「食育」という観点で、せめてこの地域の子供たちは小さいときからお茶の味がわかるように育てて欲しい、という取組があちこちでされていると思います。また、手前味噌ですが、先程学生がチラシなどを配らせていただいたのですが、ああいうイベントは基本的には子ども向け、親子向けで、小さい子どもさんに触れていただく、急須で淹れて召

し上がっていただくということを目指してあります。そういう、できることからみんなでちょっとずつやっていく必要があると思います。

世界遺産登録に関して最近お聞きする話ですと、久保さんのおっしゃっていた地元の盛り上がりという点ですが、地元で何ができるかということについて。例えば、今日会場のお越しのみなさんが、お一人お一人でどういう立場でどんなことができるかということですね。またそれから登録の際にどういったことが重視されているのかといったこと、その辺りを杉尾先生から何かアドバイスなり、ご意見をいただけると、みんな宿題として持って帰れると思うのですが。

杉尾会長：世界遺産の場合は、オリンピックの招致のように、例えば、支持率が何%とか、府民が60%以上支持していないとダメといった基準は何もないです。けれども、これから地元の方々を中心に海外からのお客さんと呼んでシンパをだんだん増やしていくとか、あるいは町なり市、府でいろんなイベントをやって盛り上げていくというのがとても大事です。だんだん意識が高まっていくということがなければ、行政の方も動けないですよ。「余計なことをして税金を無駄遣いして」という話になってしまいますし。地元の要請があって初めて行政も動けるということもありますので、そうするとイベントもできて、また盛り上がり、そして世界遺産につながっていく、という段階が踏めるんだと思います。先は長いですが。

森教授：宇治茶の世界遺産登録は、オリンピックまでに、2020年を目標として、どうでしょう、久保さんいい感じですか？

久保さん：当然です。オリンピックに来た人にはまず、宇治茶をふるまうところを目指そうかと思います。10年、20年、と言っていたらどんどんモチベーションも下がりますし、時代もどんどん変わっていきますし。今せっかくここで盛り上がったので、この勢いをもっと増すぐらいな気持ちでいた方がいいですね。今、日本には世界遺産が17か所あり、13か所暫定リストに載っているところがあります。宇治茶はそこにまずエントリーするところから始めないといけませんし、1年に一つずつしか暫定リストに登録してくれないで、ものすごく時間がかかるように思うんですけれども、でもそれは人の熱意とそのストーリーの描き方によっては順番をどんどん飛ばしていくという可能性も秘めているのが世界遺産なんです。

私が思うに、ここにいらっしゃる方皆さんが世界遺産なんです。下岡さんも含めて、私を含めて。今、お茶をいただいている、お茶がとってもおいしかったと。おいしかったことをまた誰かに伝えるべきというか。口先だけで言うのではなく、本当においしいと思い、宇治茶の景観が素晴らしいと思えば普通に口についてでるし、誰かに話したくなると思うんです。

私自身は、自分のことを世界遺産のインタープリターだと思っているんです。自分で行って、自分で見た世界遺産のすばらしさを、ひとりでも多くの人に伝えたいと思いますし、世界を旅していれば必ず日本のことについて世界の人から質問されますので、自信を持って日本の誇れる文化を伝えています。ある時は観光大使になり、ある時はインタープリターになり、ある時はアナウンサーとして。同じように、まずは今日いらっしゃった皆さんそれぞれの発信から始まると思います。

森 教授： 地元のキャラクターと一緒にでもいいですし、写真をいっぱい撮っていただいたり、今日はこんなのに行ってきたよ、と広めていただくことですね。今日、前段のシンポジウムの前のコンサートが素敵でしたよね。お茶という、喫茶の、いただくところからいきなり入らなくても、こういう広がりというか景観の中で楽しむ。木野さんはそれを味に反映されているのが凄いと思ったんですが、宇治茶に興味がなくても音楽を聞きたい人が来て、そこから宇治茶に出会うといった、いろんな出会い方の可能性があるのだなと凄く感動しました。柔軟なアイデアで文化を楽しんでいくのが大事だなと思いました。

久保 さん： 宇治で生産されている方々は永谷宗圓ながたにそうえんになったらいいのではないかなと思ったかもしれませんし、コンサートをなさっていた木野さんも音楽を通じてお茶と知り合うきっかけを作られている。レンガの炉を紹介した山本さんもご自身で宇治茶のアイスクリームを作ったり、水出してん茶を作ったり、少しでもいろんな可能性を探り、新しいものを作り生計を維持しながら伝えたいとがんばっておられる。やっぱり今も永谷宗圓が宇治にはいるんだ、と思ったときに、安心しました。世界遺産までいける！と思いました。

森 教授： 宇治茶の方と話をするとよく「伝統と革新」ということをおっしゃるのですが、そういう日々の工夫が根っこにあるということですね。だんだん時間がなくなってきましたが、最後に一言ずつお話しただいていいですか。

下岡 さん： 両先生にお願いしたいこととは、宇治茶の良さ・魅力を伝えていくにはやはり、世界遺産の委員の皆さんなどに、「どこへでも私はお茶を淹れにいきます」とこだけは伝えていくつもりでおります。いかにして世界遺産にするのかということとは先生方をお願いして、まだまだ宇治茶にはいろんな魅力がありますし。

お茶というのはのどを潤すものと思っている人が多いと思いますが、私は心を潤すものだと思っています。宇治茶はのどを潤すものではなく、心が和み、心が潤い、いいことが生まれてくる。このお茶を飲むとそんな気持ちになってもらえると思います。



杉尾会長：宇治に来て、お茶を飲む場がどこにあるか一般の観光客にはなかなかわからないと思いますね。京阪の駅、J Rの駅を降りて平等院へ向かって歩いて行って、途中に茶店があってもただの売店みたいなものとしか映らなくて。平等院へ行っ
て見終わったら、ちょっとソフトクリームを食べて帰ろうかと、駅の売店でお土産をちょっと買って帰ると。じっくりとお茶を味わうスペースも欲しいと思います。私が知らないだけでそういう場所もあるんですかね。

例えば、鳥根県の足立美術館は庭を作っていて、古いものではないのですがそれがとても好評を博して観光客が押し寄せるといふことにもなっています。確か宇治には、平等院は別にして名勝の庭園はなかったと思うので、これから平成の時代に、煎茶の茶室と庭があるとか、抹茶の茶室と庭がある、というような場所を作っていくのはいかがでしょうか。きっと上林さんの家にはあるんでしょうが、気軽に入って行ける場所を作っていってPRしていければと思います。

森教授：下岡さん、私も他人事ではないのですが、なかなか茶業会議所の理事として厳しい立場かもしれませんね。実際に体験できる場所もあるんですが、それが先生には届いていない。観光の文脈ではよく言われるのですが、発信力の弱さ。やっぱり届いて初めて情報になるという言い方もあるので、そのあたりぜひ、いいものはあるんだ、それをどういうふうに伝えて、守っていったらいいのかということを考えていかないといけないと思いました。

まだまだ話し尽くせないこともあるかと思うのですが、時間になってしまいました。

今日、杉本会頭からもありましたように、今日の方がキックオフ、今日から始まります。さきほど久保さんも「まだ暫定リストにも入ってない」とおっしゃってたんですが、ここからはじまった小さな歩みが、会場みなさんの力も合わせ

て、例えば今日帰ってご家族にお話いただく、お友達にお話しいただくということで、もう5、10人と拡がっていくかと思います。話をしているうちに改めてその価値に気が付いていくということもありますので、ぜひ、みんなで宇治茶をいつまでもおいしくいただけるように、世界遺産を目指していく取組が少しずつ前に進んでいけばいいなと思います。

世界遺産の歌「ここに生きる」

宇治を拠点に学校でのワークショップや市民劇の企画など多様な活動を展開するNPO法人山城こみねっとによる合唱。



世界遺産の歌 「ここに生きる」

(歌詞：NPO法人 山城こみねっと)

ホオジロ飛び立つ深い緑 いっせい芽吹く一面茶畑
まぶしい日差しさえぎる茶園 和東 南山城 一面茶畑
うるわし緑の線状模様 長く変わらずここにある
古き世に手塩にかけて 育てた青製煎茶
今は誰もが飲んでいる
茶問屋 茶農家 茶師屋敷 ならぶ
宇治 上狛 宇治田原

※ここは私が育った大地
ここに私のすべてがある
悠久の歴史が作ったこの土地が
世界をなごます 世界をうならす
朝焼けの雲 紺碧の空 浮かぶ綿雲 しみこむ雨水
そのすべてが 茶の緑を深くする
そのすべてに 歴史が生きている

ウグイスなく露が光る茶園 わらの香り漂う覆い下
深い緑たたえる若葉 ふくらみだした命 みなぎる茶畑
わびさびつらぬく日本の伝統 世界の宝利休茶道
栄西種を伝え始まる 歴史支えた宇治茶
今はすべての地に広がる
茶道 煎茶道 うまれ 脈々生き続け
湯船・白川 童仙房 山城の地

※くり返し

会場の様子

お茶まつり応援団の京都府広報監まゆまろ、チャチャ王国のおうじちゃま、茶茶ちゃんも応援にかけつけ会場を盛り上げました。

にぎわいコーナー

宇治茶に親しめる各種体験プログラムなどを催しました。

水出し玉露の振る舞い……京都府茶業会議所、宇治茶レディ

抹茶体験教室………楽茶館

お茶の淹れ方教室………日本インストラクター協会京都府支部

茶染め体験………京都ローターアクトクラブ

新鮮野菜の販売………J A 京都やましろ

宇治茶スイーツの販売……宇治市食育ネットワーク(まきしま絆の会)

株式会社京のちから、菓子工房ぐらん・ぶるー





宇治茶レディによる水出し玉露でのお出迎え



お茶まつり応援団のキャラクターたちも集合



抹茶体験教室



お茶の淹れ方教室



茶染めのハンカチづくり



新鮮野菜の販売



宇治茶スイーツの販売



パネル・ギャラリー展示

宇治茶の世界文化遺産登録に向け構成資産候補や宇治茶の歴史・文化をご紹介します。

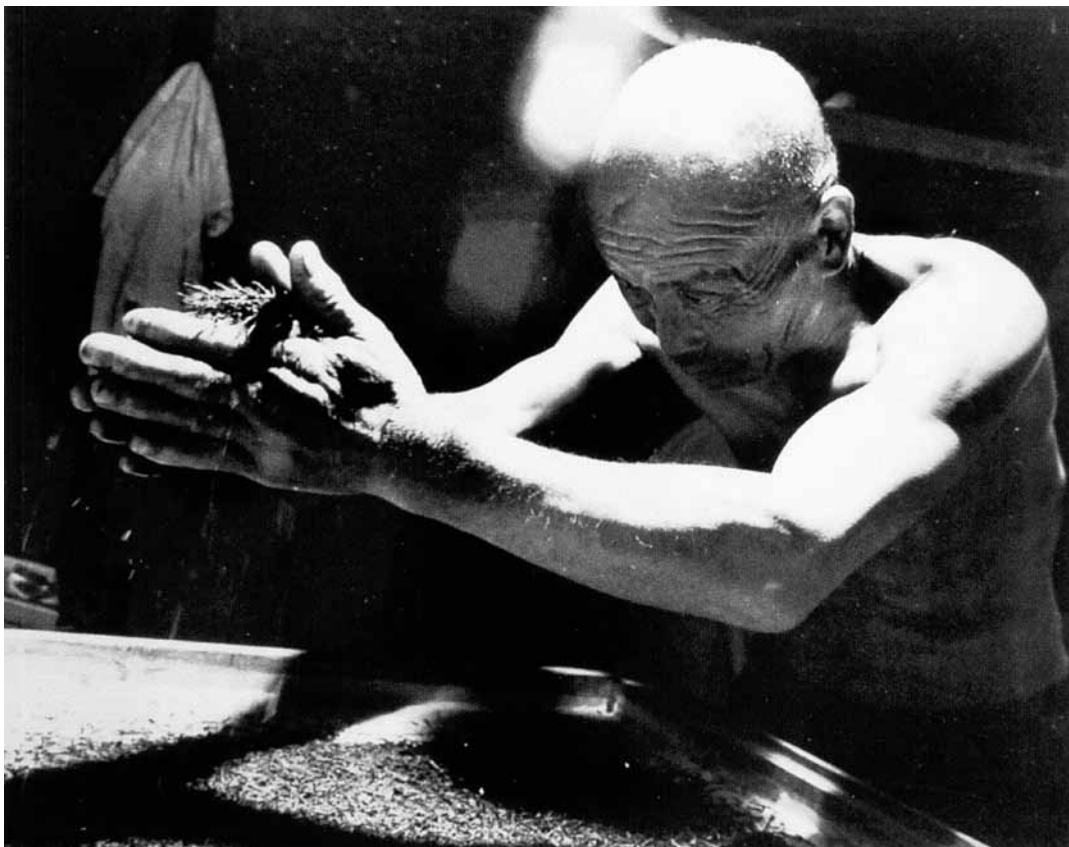
ギャラリー展示



丘の上まで美しく広がる露地茶園



明治以前の景観を残す集落



日本特有の揉み茶の誕生、宇治製法



400年の伝統を守る、本ず茶園の手摘み



世界唯一の製法を確立した永谷宗圓の生家



山城地域の各所に残る茶商の街並み



宇治茶が誇る覆下(おいしい)茶園



本ずの茶、寒冷紗の黒、茶樹の緑が美しく共存する、宇治茶園



世界に類を見ない技・味・文化 宇治抹茶



宇治茶生産によって作られた美しい景観がそこかしこに

撮影：川下榮穂／南山城村高尾・白石地区

パネル展示





日本茶のふるさと 「宇治茶生産の景観」 を世界文化遺産に

Uji Tea, the birthplace of Japanese tea

世界遺産は、ユネスコの世界遺産条約に基づいて登録される
未来へと伝えていくべき人類共通の遺産です。

日本茶のふるさと「宇治茶生産の景観」は、

- 中世以来、発展・継続してきた日本茶の生産により形成され、育まれてきた文化的景観であり、この地で発生した抹茶、煎茶、本露の栽培法と製法の伝統と革新の歴史を最も良く表しており、現在も最高品質の日本茶の生産を通じて日本独自の文化である「茶の湯」を支えています。
- 日本茶とそれに関わる伝統的文化を語り、将来に伝えていく上で、他に例を見ない重要な遺産であり、顕著な普遍的価値を有するものです。

宇治茶の世界文化遺産登録を目指す意義は、

- 宇治茶の魅力や価値を大切にして、原点である地域ぐるみで景観保全や技術、文化を維持していく
- 宇治茶の価値を日本や世界の人々に伝え、人類共通の貴重な宝として将来にわたって継承していく ことです。

事務局

日本茶のふるさと「宇治茶生産の景観」を世界文化遺産に
Uji Tea, the birthplace of Japanese tea

宇治茶の歴史と発展

時代	宇治茶の歴史
平安時代 (794年～) (100年頃)	唐から煎茶法(煮茶法)が伝わる 【煎茶を飲出して飲む文化】 山城守公純(河内)などに茶を嗜み、これを献上することを目指す 『日本書紀』(お茶が賞賜する日本書紀の記録) 平安京(西園寺)の茶室(茶室)に使用 常かん茶法が伝わる
鎌倉時代 (1185年頃～) (1333年)	【煎茶を飲出して飲む文化】 相模で茶の栽培開始 宇治で茶の栽培開始
南北朝時代 (1334年頃～) (1332年)	煎茶(茶かじり)流行
室町時代 (1336年頃～) (1573年)	宇治の茶が徳川家康と徳川幕府が愛飲するトップクラスとなる 「献上」「別荘」の知識が宇治に伝わり、宇治が興る 【宇治茶が宇治町を中核として広がって宇治茶を産出し、茶にまつる商売を興す】 茶の湯の産地 宇治の茶園の成立 唐下茶園の出現(宇治茶)
安土桃山時代 (1573年頃～) (1603年)	ゴットフリド・フォン・シラーが『日本書紀』について宇治の唐下茶園の様子を記述 豊前守 宇治藩に初めて「煎茶」の記録を残す 豊前守 宇治藩に初めて「煎茶」の記録を残す 茶の湯の文化(宇治茶)
江戸時代 初期 (1603年～1691年)	お茶産地が制度化される(約200年間、専ら茶産地) 【宇治茶が各大名と茶の好みに応じて異なる品質の煎茶を供給する】、茶の生産、 流通から「煎茶」まで一貫して行われる 明から輸入される 【煎茶を飲出して飲む文化】 ドイツ人旅行家「シラー」『日本書紀』に宇治茶のことが記載される
中期 (1692年～1777年)	高橋 宗の茶山(遠征)で茶産地が広がる 【文人や知識人に煎茶風味が流行するきっかけ】 宇治製茶(製茶)の歴史(宇治製茶) 【茶園が輸出される】
後期 (1778年～1868年)	専ら茶産地として、宇治茶の歴史が書かれる 煎茶生産の中心となる茶産地の出現(宇治茶) 唐下茶園が南山(嵯峨)を中心とした 徳川幕府(日本書紀)に伝わる 茶産地(宇治)に宇治茶の歴史が書かれる 神戸開港
明治時代 (1868年～1912年)	【宇治茶、煎茶輸出商品として特産品に再編】 【茶園が輸出される】 山崎茶園の出現(煎茶の生産体制の確立) 茶子教育の一例(茶産地)が知られる 国内市場の開始や流通網の拡大により、宇治茶が一般茶産地にも普及する

事務局

構成資産候補

覆下栽培の茶生産の景観

- 安土桃山時代には、宇治の茶の生産地において、茶園全体を覆光する覆下栽培が始まり、編織された茶葉は高級な茶葉に加工されました。ここに独自の味と香りを見いだす覆下茶葉が創出され、中国から伝来した露地栽培による苦みの強い抹茶とは異なる日本特有の抹茶が出現しました。
- また、千利休が、茶室、道長、点前、懐石、精神性など、茶の湯を構成する様々な要素において創意工夫を重ね、茶の湯を大成しました。その茶の湯を支えていたのは上級茶を中心とする宇治茶種たちでありました。



千利休

構成資産候補

露地栽培の茶生産の景観-第1期

- 宇治製法による煎茶の登場により、宇治茶の産地が増えることで、より庶民化されるきっかけとなりました。
- 19世紀初めまでには、宇治が煎茶家や大名家向けに抹茶を中心とした生産を行うのに対して、宇治田原、和東など京都府の南山城の産地は煎茶生産に力を入れ、江戸商人と結びついて発展しました。

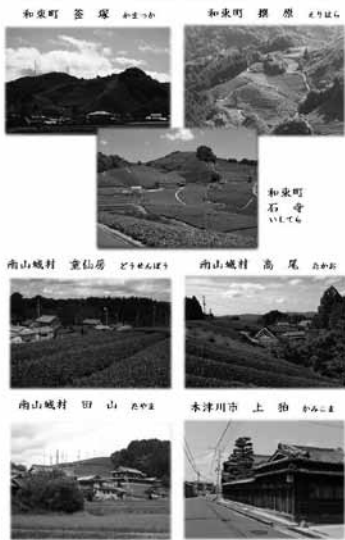


千利休

構成資産候補

露地栽培の茶生産の景観-第2期

- 宇治茶は、異域開港を迎えると、アメリカ市場を中心とした輸出産業の一翼を担い、煎茶を中心に花柄箱は輸品として外貨獲得に貢献しました。
- 京都府の南山城地域では、一手を揃じて良質茶を供給できるように生産体制を目標し、茶問屋は宇治茶を世界に広める際の発信地となりました。



千利休

宇治茶の歴史と発展の概要-その1

宇治は、京都・奈良・大津を結ぶ交通の要衝で、平安時代には貴族の別荘地であり、武蔵、地勢、地質・土壌との縁で茶の樹に適した自然環境があったことから記録にみえる14世紀には、すでに日本を代表する茶の生産地となっていました。



茶の樹影園歌碑(宇治市)
明恵上人が宇治の里人に茶に縁を結ぶ。茶の樹の影と音が響きあう。明恵上人が茶に縁を結ぶ。茶の樹の影と音が響きあう。明恵上人が茶に縁を結ぶ。茶の樹の影と音が響きあう。

16世紀初期の安土桃山時代には、茶の湯は権威と権力を持示するため、高取者であった織田信長や豊臣秀吉に愛用され、彼らが主催する茶会で開かれ、天下の茶としての地位を確立しました。



国家待庵(大山崎町)
わが国最古の茶室建築物で千利休の現存する遺構として唯一の茶室

千利休

宇治茶の歴史と発展の概要-その2

17世紀中期、中国から煎茶で茶葉に湯を注いで飲む方法が日本に伝わり、18世紀中期には、先茶葉が、湯中での蒸らすで立ち上げを行い煎茶の普及に大きな役割を果たしました。



貴顕山麓の寺(宇治市)
先茶葉が、湯中での蒸らすで立ち上げ



先茶葉 先茶葉



先茶葉 先茶葉

宇治田原町湯屋谷を中心とした茶農家では、蒸した茶の新鮮を焙炉の上で手で揉み乾燥する宇治製法(香製煎茶法)が産み出され、色・香・味ともに優れた日本特有の煎茶が出現しました。宇治製法は、宇治田原や宇治の生産者たちによって全国の茶産地へ広められ、19世紀に入ると、煎茶の普及と相俟って、急速に拡大し、主要茶産地は幕末までにこの製法を習得し、各地域の茶の品質向上に結びつきました。



永谷宗門生家(宇治田原町)



永谷宗門 茶室明神社



日本最古の焙炉跡 宇治茶手揉み製法

京都府

宇治茶の歴史と発展の概要-その3

宇治製法の全国への伝播にもない、より高品質の茶が求められ、このニーズに応じ、19世紀前期、宇治の茶の産地では覆下栽培の茶葉を宇治製法で製茶した玉露が生み出されました。覆下栽培でつくられた茶の場合のようには宇治郡のみとする規制はなく、京都府南部地域を中心に生産が拡大しました。



玉露製茶記念碑(宇治市)

覆下茶園(京田原町)



宇治市小倉の茶園で覆下栽培の様子を見ていた山本嘉次郎が、蒸された茶葉を揉み乾燥し、お茶の味が良くなるように工夫したところから「新製 玉露」と呼ばれるようになったとされています。

宇治製法で作られる煎茶や玉露を飲む茶会が、京都を中心に文人、商家、茶人などによって広がり、煎茶道が発展し、専用の茶室が創設されました。



朝山楼

上田秋成

田原村竹田



山本嘉次郎

朝山楼の茶室兼茶室として使われた建物1

京都府

宇治茶の歴史と発展の概要-その4

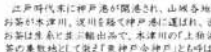
明治維新になると、宇治茶は、国内市場の開拓へとシフトさせ、通信販売などにより一般家庭に生活文化の茶を普及させるとともに、他の産地と競い合う製茶技術を駆使し、多種で高品質な茶の生産を行い市場に供給し続けることにより、産地を一段と高めながら現在に至っています。



茶問屋の町並み(木津川市)



茶問屋の町並み(宇治市)



山崎茶室文庫(木津川市)



茶問屋の町並み(宇治田原町)

江戸時代末に神戸港が開港され、山崎各地からこの地に集められたお茶が木津川、淀川を経て神戸港に運ばれ、世界へ輸出されました。お茶は生糸に並ぶ輸出品で、木津川の「上瀬川」を控えたこの地は茶の集散地として激しく発展し神戸へと呼ばれました。

生業として継続している宇治茶生産の景観



山なり茶園

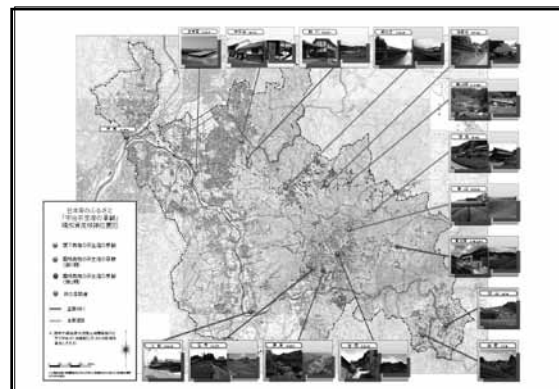


木下覆下茶園



河川敷の覆下茶園

京都府



ちらし



第67回 全国お茶まつり 京都大会 2013

宇治

宇治茶

世界文化遺産

シンポジウム

テーマ
日本茶のふるさと
宇治茶を世界遺産に

和東の茶畑(京都府景観資産)

平成 25 年
日時 **10月19日(土)**
場所 **宇治市文化センター**
(宇治市折居台1丁目1)

定員 400名
※お申し込み方法は裏面をご覧ください

費用 入場無料

内容
11時30分～/会場内
○宇治茶の振る舞い
○宇治茶や農産物の販売 } ※なくなりしだい 終了します
○体験コーナー
○宇治茶の世界遺産登録に向けての取組や歴史の紹介、パネル展示 など

13時～17時/メイン会場(小ホール)内

- ミニコンサート、Lepus(レプス) 案内人:木野正男氏(茶生産農家)
- 基調講演
杉尾 伸太郎氏(イコモス文化的景観国際学術委員会副会長)
久保 美智代氏(旅する世界遺産研究家・アナウンサー)
- トークセッション
杉尾氏、久保氏のほか下園久五郎氏(茶生産農家)、森正美氏(京都文教大学教授)などをお招きし、宇治茶の魅力を語ります。
- 世界遺産の歌「ここに生きる」
(NPO 法人山城こみねっと)

アクセス
京阪「宇治」から バス約9分
JR「宇治」から バス約7分
バス停「宇治文化センター」下車
近鉄「大久保」から バス約25分
バス停「琵琶台口」下車 徒歩約10分
※ご来場の際は 公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせ
京都府農林水産部農政課
電話 075-414-4898 FAX 075-414-4939

主催
第67回全国お茶まつり京都大会実行委員会
<http://www.pref.kyoto.jp/nosan/67cha-fest.html>

協力(順不同)
日本茶インストラクター協会京都府支部 楽茶館
JA 京都やましろ 宇治市食育ネットワーク
株式会社京のちから 京都ローターアクトクラブ など

安心・安全 希望の京都へ だれもがしあわせを実感できる京都をめざして

きょうと 府民だより



◎特集

宇治茶を ユネスコ世界文化遺産へ

宇治茶の郷 和東の茶畑(京都府景観資産)

京都の色と風景 今月の伝統色 松葉色(まつばいろ) 常緑樹の松葉の色のような緑。不変を表す色として江戸期以降、特に好まれてきました。

〈総合窓口〉府民総合案内・相談センター
☎075-411-5000 ☎075-411-5001
✉411-5000@pref.kyoto.lg.jp
府民サービス・ナビ ☎http://navi.pref.kyoto.lg.jp/
✿(発行)京都府 〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入
☎http://www.pref.kyoto.jp/

■ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/koho/dayori/>

きょうと府民だより 検索

■携帯サイト <http://www.pref.kyoto.jp/i/dayori/>

※点字版、文字拡大版、音声版も発行しています。ご希望の方はご連絡ください。
広報課 ☎075-414-4074 ☎075-414-4075 ✉koho@pref.kyoto.lg.jp





覆下栽培と青製煎茶製法でつくられた玉露

800年の時をかけ 磨かれた極上のお茶

宇治茶の始まりは鎌倉時代、栄西禪師が宋から茶種を持ち帰り、それを譲り受けた明恵上人が梅尾や宇治で栽培したのが最初といわれます。

その後、16世紀頃に宇治茶師を中心に良い茶を作ろうとする中で、新芽が出る一定の期間に茶の木に覆いをする「覆下栽培」が始まりました。こうして渋味が少く、旨みのある日本特有の抹茶が現れました。さらに江戸時代中期に宇治田原の永谷宗円が「青製煎茶製法」を提案しました。これが今、最も親しまれている飲み方、煎茶です。19世紀には、宇治で、覆下栽培による茶を青製煎

茶製法で作る「玉露」が発明されました。現在に伝わるお茶の生産技術は、そのほとんどが宇治山城をルーツにしています。

宇治茶の特徴は、抹茶の原料となる碾茶、煎茶、玉露のすべてが作られていることです。産地としての規模は静岡や鹿児島の方が大きいものの、栽培されているのはほとんどが煎茶です。

もう一つの特徴は、歴史と伝統に裏打ちされた優れた組合技術です。組合は、茶葉の良さを引き出し組み合わせ、いわばブレンドのようなもの。茶園ごとに特徴のある茶葉を組み合わせ、繊細な風味を引き出します。

古くからある飲料というだけでなく、800年前からブランドとして成り立っていたという珍しい歴史を持つのも宇治茶ならでは。それは、すぐ近くに都があったこと、茶道が発達したこと、茶道が深く関わっています。都の人の生活に密着して育まれ、磨かれてきたことが宇治茶をより魅力的にしているのです。

数字で見る宇治茶

碾茶・玉露・かぶせ茶

1等1席

今年の全国茶品評会において、碾茶・玉露・かぶせ茶で宇治茶が最優秀の1等1席(農林水産大臣賞)を受賞。

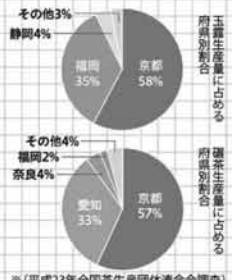
「宇治茶」と記された最古の記録

1374年

豊原信秋『信秋記』の応安7年(1374年)4月1日条に登場。この時すでに贈答用に使用されていました。

碾茶・玉露の生産量 第1位

碾茶や玉露は、直射日光を避けた「覆下栽培」で生産されるお茶です。この2つのお茶の生産量の多さが、高級茶としての宇治茶を印象づけています。



※(平成23年全国茶生産団体連合会調査)

お茶には「おもてなしの心」という日本文化の源があります。

茶業界の間は碾茶の色を「青い」と表現します。それは、葉を光にかざすと青く見えるから。この青みで抹茶の緑色を測ります。このように、お茶の作り手は茶葉の品質を五感で調べ、代々受け継いだ技術で仕上げます。できたお茶はただ喉を潤すだけでなく、人と人のつながりも生み出し、日本の喫茶文化を育んできました。



宇治茶伝道師 小山 茂樹さん



関連イベント

■お茶といけばなの祭典
府立植物園で抹茶、煎茶などの日本茶の他、紅茶、チャイなどのお茶席やいけばな作品の展示、ステージイベント、スタンラリーなど。
11月3日(祝)10時〜15時30分
府立植物園(左京区)

■平成の北野大茶会
1587年に豊臣秀吉が催した「北野大茶湯」を、平成の今に開催する企画です。
11月17日(日)10時〜16時
北野天満宮(上京区)

■全国お茶まつり京都大会
宇治茶の魅力発信イベント
宇治市を中心として開催するお茶まつり。宇治茶の無料接待やスタンラリー、聞き茶めぐりなど。(部有料)
11月16日(土)9時30分〜16時
17日(日)10時〜16時
南宇治駅〜商店街〜宇治市役所

■宇治茶世界文化遺産シンポジウム
日本茶のふもと、宇治茶を世界遺産に！宇治茶の魅力発信する講演やミニコンサートなど。会場では宇治茶の振る舞いや直売会も。
10月19日(土)13時〜17時
宇治茶振る舞いなどは1時30分〜
宇治市文化センター
400名(先着順)10月15日(火)まで
農府民総合案内相談センター
075-411-5000
075-411-5001

■農政課
075-414-4898
075-414-4939

〔特集〕

宇治茶を

ユネスコ

世界文化遺産へ

日本を代表するお茶の一大ブランド「宇治茶」。

現在、府では日本茶のふるさと

「宇治茶生産の景観」を

世界文化遺産として登録することを目指しています。

今日の日本茶の礎を築いてきた

宇治茶の歴史文化に

その味わいとともに触れてみませんか。



宇治茶

Uji tea

日本茶のふるさと

「宇治茶生産の景観」を 未来へ伝える

世界文化遺産は、ユネスコの世界

遺産条約に基づいて登録される、未

来へと伝えていくべき人類共通の

遺産です。日本のお茶づくりは、中

世から発展してきた私たちの文

化、その歴史を牽引し、育んできた

「宇治茶生産の景観」には、栽培法

と製法両面の伝統と革新が表れて

います。日本茶を代表する抹茶、煎

茶、玉露はこの地で生まれ、さらに、

最高品質の日本茶を生産すること

で日本独自の文化である「茶の湯」

を支えてきました。世界遺産への登

録を目指す背景には、日本茶とそ

れに関わる私たちの伝統文化を、

将来に語り伝え、守り続けていこ

うという考えを込めています。

府では、2011年に世界文化

遺産登録に向けた検討委員会を設

置しました。現在、まずは国内での

候補となるべく、暫定リスト入り

を目指しているところです。

また、世界文化遺産への登録に

は、地域の生活や生業との関係が

色濃く反映される一面があり、地

元の皆さんのご理解や応援も大切

になります。そこで、生産者や流通

業者からなる京都府茶業会議所の

ほか、地元企業や地域団体などと

さまざまな人々がお互いに協力し合

いながら、登録に向けて機運を高

める活動を行っています。



日光を遮ることによって、茶の旨み成分を引き出す宇治茶の「覆下（おおいた）栽培」。柔らかく色鮮やかな茶葉に育ちます。

10月19日
シンポジウム

宇治茶を世界遺産に お茶・農産物の直売も



第67回全国お茶まつり京都大会実行委員会は、「日本茶のふるさと宇治茶を世界遺産に」をテーマに、シンポジウムを開きます。

日にち 10月19日(土)
時間 午後1時～5時
場所 宇治市文化センター

内容 基調講演、ミニコンサート、宇治茶・農産物の直売など
午前11時30分からは宇治茶の無料接待があります。
定員 先着400人
費用 無料
申込方法 電話で申し込んでください
しめぎり 10月11日(金)
問合せ先 京都府農政課
(☎075・414・4898)

宇治茶世界文化遺産シンポジウム 日本茶のふるさと 宇治茶を世界遺産に

基調講演、トークセッション、ミニコンサートなどをお楽しみください。宇治茶の振る舞いや農産物の直売などもあります。

- 日時 / 10月19日(土) 午後1時～5時
※宇治茶の振る舞い、農産物の直売などは午前11時30分から開催。
 - 場所 / 宇治市文化センター
 - 申込み / 10月15日(火) まで(手話通訳をご希望の方は6日まで) に、電話、ファクス、電子メールで、京都府府民総合案内・相談センター (☎411 - 5000、FAX411 - 5001、電子メール411-5000@pref.kyoto.lg.jp) へ。①お住まいの市町村名 ②氏名 ③連絡先(電話・ファクス番号または電子メールアドレス) ④手話通訳、車いす対応希望の有無をお伝えください。定員(400人)になり次第締め切り。
- ☎京都府農林水産部農政課 ☎414 - 4898

宇治市政だより(宇治市) 平成25年10月1日号

■宇治茶世界文化遺産シンポジウム

宇治茶の世界文化遺産登録を目指し、シンポジウムを行います。宇治茶の振る舞い、宇治茶・農産物の直売、パネル展示等もあります。▷とき…10月19日(土)、午後1時～5時(宇治茶の振る舞い等は、午前11時半～)▷ところ…文化センター▷定員…先着400人▷内容…基調講演、トークセッション、ミニコンサート等▷参加費…無料 氏名・住所・電話(ファクス)番号かEメールアドレスを、10月15日(火)までに、府民総合案内・相談センター(☎075-411-5000)へ。

広報きづがわ(木津川市) 平成25年10月号

宇治茶世界文化遺産シンポジウム

～日本茶のふるさと 宇治茶を世界遺産に～
(第67回全国お茶まつり京都大会関連事業)

無料

山城地域には、茶畑や茶工場、茶問屋など宇治茶の生産・流通・喫茶に関する多くの資産があり、これらの資産の世界文化遺産登録をテーマにしたシンポジウムが開催されます。
木津川市の特産品である宇治茶について学び、世界文化遺産登録について理解を深める良い機会ですので、市民の皆さんのご参加をお待ちしております。

と き 10月19日(土) 午後1時～5時
と ころ 宇治市文化センター(宇治市折居台1丁目1番地)
内 容 基調講演、トークセッション、ミニコンサート等
(会場では午前11時30分からパネル展示、宇治茶の振る舞い、宇治茶・農産物の直売等をおこないます。)
定 員 400人(先着順)
申 込 10月15日までに、①お住まいの市町村、②氏名、③連絡先(電話・Fax・メールアドレスのいずれか)、④手話通訳(10月6日まで)、車いす対応希望の有無を電話・Fax・E-mailで次へ。
京都府府民総合案内・相談センター ☎075-411-5000 Fax075-411-5001
E-mail: 411-5000@pref.kyoto.lg.jp
問合せ 京都府農林水産部農政課 ☎075-414-4898
主 催 第67回全国お茶まつり京都大会実行委員会

▶宇治茶世界文化遺産
シンポジウム

～日本茶のふるさと
宇治茶を世界遺産に～

日 時 10月19日(土) 午後1時～
5時

場 所 宇治市文化センター(宇治
市折居台1丁目1)

定 員 先着400人

内 容 基調講演、トークセッション、ミニコンサートなど※午前11時30分からは宇治茶の振る舞い、宇治茶・農産物の直売、パネル展示なども行われます。

申込み・問合せ 10月15日(火)ま
でに京都府農林水産部農政課(☎414
-4898)

華創(精華町) 平成25年10月号

宇治茶世界文化遺産シンポジウム～日本茶のふるさと 宇治茶を世界遺産に 第67回全国お茶まつり京都大会関連事業

- ▶日時 10月19日(土) 午後1時～5時
▶場所 宇治市文化センター (宇治市折居台1丁目1)
▶定員 先着400人
▶内容 基調講演・トークセッション・ミニコンサートほか
※当日午前11時30分からは、会場で宇治茶の振る舞いや、宇治茶・農産物の直売、パネル展示なども行われます。
- ▶申込期間 10月15日(火)までの平日
受付時間：午前9時～午後5時(時間外は留守番電話)
- ▶申込方法 ①在住の市町村名②氏名③電話番号、またはファクス番号、Eメールアドレス④手話通訳・車いす対応希望の有無を電話、またはファクス、Eメールで次のところへ。
京都府府民総合案内・相談センター
(TEL 075-411-5000・FAX 075-411-5001)
(E-mail: 411-5000@pref.kyoto.lg.jp)
- ▶主催 第67回全国お茶まつり京都大会実行委員会
○問い合わせ
京都府 農林水産部 農政課 (TEL 075-414-4898)

広報じょうよう(城陽市) 平成25年10月15日号

宇治茶世界文化遺産シンポジウム

日本茶のふるさと 宇治茶を世界遺産に

日時 10月19日(土) 午後1時～5時

場所 宇治市文化センター

内容 基調講演、ミニコンサートなど

定員 400人 ※申込不要・無料

問府農政課 ☎075-414-4898

第 67 回全国お茶まつり京都大会関連イベント

宇治 全国お茶まつり 京都大会 2013

日本茶のふるさと 宇治茶を世界遺産に
—宇治茶世界文化遺産シンポジウム—
主催 第 67 回全国お茶まつり京都大会実行委員会

日時 平成 25 年 10 月 19 日(土) 13:00 ~
11:30 ~宇治茶の振る舞い、宇治茶や農産物の販売、体験コーナー等実施

場所 宇治市文化センター小ホール
京阪宇治バス「宇治文化センター」すぐまたは「琵琶台口」下車徒歩約 10 分
※ご来場の際は 公共交通機関をご利用ください。

◎ミニコンサート
Lepus(レプス) 案内人: 木野正男氏(茶生産農家)

◎基調講演
杉尾伸太郎氏(イコモス文化的景観国際学術委員会副会長)
久保美智代氏(旅する茶葉造産物研究家・アナウンサー)

◎トークセッション
杉尾氏、久保氏のほか下岡久五郎氏(茶生産農家)、森正美氏(京都文教大学教授)などをお招きし、宇治茶の魅力語り。

◎世界遺産のうた「ここに生きる」NPO法人山城こみねっと

お申し込み方法
電話、ファックス、Eメールで、①市町村 ②お名前 ③連絡先(電話又はファックス、Eメール)を連絡。
※車いす対応ご希望の有無を明記のうえ、10月15日(火)までにお申し込みください。

お申し込み先
京都府府民総合案内・相談センター
☎075-411-5000(平日9時~17時:時間外は留守番電話) FAX:075-411-5001
Eメール:411-5000@pref.kyoto.lg.jp

協力団体/日本茶インストラクター協会京都府支部、茶茶館、JA京都やましろ、宇治市食育ネットワーク、株式会社京のちから、京都ローターアクトクラブなど
お問い合わせ/京都府農林水産部農政課 ☎075-414-4898 FAX:075-414-4939

—日本茶のあるさと「宇治茶生産の景観」を未来へ伝える—
世界文化遺産は、ユネスコの世界文化遺産条約に基づいて登録される、未来へと伝えていくべき人類共通の遺産です。中世以来発達してきた日本茶の生産により形成され、育まれてきた「宇治茶生産の景観」は、この地で誕生した抹茶、煎茶、玉露の栽培法と製法の伝統と革新をよく表しています。現在も最高品質の日本茶の生産を通じて日本独自の文化である「茶の道」を支えています。世界遺産登録を目指す背景には、日本茶とそれに関わる伝統文化を将来に語り伝え、保存、維持していこうという考えがあります。本シンポジウムでは、日本茶を代表する抹茶、煎茶、玉露の発祥の地で、地域の方々とともに宇治茶の魅力を再発見し、その価値を奨励していく契機としていただくため、多くの皆さんにご協力のもと開催するものです。ぜひご参加ください。



杉尾伸太郎氏



久保美智代氏



宇治茶田

宇治茶世界文化遺産シンポジウム

日本茶のふるさと 宇治茶を世界遺産に

と き 2013年10月19日(土) 13時～17時

ところ 宇治市文化センター(宇治市折居台1丁目1)

内 容 基調講演、トークセッション、ミニコンサート等

定 員 400名

参加費 無料

申 込 電話、Fax、eメールのいずれかで、
①お住まいの市町村②氏名③連絡先
④手話通訳、車いす対応希望の有無
を明記のうえ、お申込みください。

申込先 京都府府民総合案内・相談センター
Tel 075-411-5000 Fax 075-411-5001
e-mail 411-5000@pref.kyoto.lg.jp

主催：第67回全国お茶まつり京都大会実行委員会



第67回 全国お茶まつり 京都大会 2013

宇治茶

世界文化遺産

シンポジウム

テーマ
日本茶のふるさと
宇治茶を世界遺産に

和東の茶畑(京都府景観資産)

平成 25 年
日時 **10月19日(土)**
場所 **宇治市文化センター**
(宇治市折居台1丁目1)

定員 400名
※お申し込み方法は裏面をご覧ください

費用 入場無料

内容
11時30分~/会場内
○宇治茶の振る舞い
○宇治茶や農産物の販売 } ※なくなり次第終了します
○体験コーナー
○宇治茶の世界遺産登録に向けての取組や歴史の紹介、パネル展示 など

13時~17時/メイン会場(小ホール)内

- ミニコンサート、Lepus(レプス) 案内人:木野正男氏(茶生産農家)
- 基調講演
杉尾 伸太郎氏(イコモス文化的景観国際学術委員会副会長)
久保 美智代氏(旅する世界遺産研究者・アナウンサー)
- トークセッション
杉尾氏、久保氏のほか下岡久五郎氏(茶生産農家)、森正美氏(京都文教大学教授)などをお招きし、宇治茶の魅力を語ります。
- 世界遺産の歌「ここに生きる」
(NPO法人山城こみねっと)

お問い合わせ
京都府農林水産部農政課
電話 075-414-4898 FAX 075-414-4939
主催
第67回全国お茶まつり京都大会実行委員会
<http://www.pref.kyoto.jp/nosan/67cha-fest.html>
協力(順不同)
日本茶インストラクター協会京都府支部 楽茶館
JA 京都やましろ 宇治市食育ネットワーク
株式会社京のちから 京都ローターアクトクラブ など

第67回全国お茶まつり京都大会

主催

宇治市、（公社）日本茶業中央会、全国茶生産団体連合会、関西茶業協議会
（公社）京都府茶業会議所、京都府茶生産協議会、京都府茶協同組合、京都府農業協同組合中央会
全国農業協同組合連合会京都府本部、京都府茶業連合青年団、京都府

宇治茶世界文化遺産シンポジウム

主催

第67回全国お茶まつり京都大会実行委員会

協力

日本茶インストラクター協会京都府支部、楽茶館、JA京都やましろ、宇治市食育ネットワーク
株式会社京のちから、京都ローターアクトクラブ、NPO法人山城こみねっと

